



技術士だより・九州

公益社団法人 日本技術士会九州本部 冬季号<第142号> (令和7年1月15日発行)



SAGAアリーナ



SAGAサンライズパーク



佐賀市役所前



佐賀駅前

SAGA2024 国スポ・全障スポ

佐賀県では、令和6年10月5日から10月15日まで『国民スポーツ大会』、10月26日から10月28日まで『全国障害者スポーツ大会』が開催されました。『国体』から『国スポ』に変わった最初の大会で、本大会には全国各地から選手や関係者ら計50万人の方が参加されました。メイン会場であるSAGAサンライズパーク、SAGAアリーナでは、開閉会式が行われました。参加者に楽しんでもらうため、ピクトグラムを用いた案内やバナーフラッグ等様々な趣向を凝らしたおもてなしの場が県内各地でみられました。来年は滋賀県で開催される予定です。

こうし 勉 (建設・佐賀)

目

次

巻頭言	1
私の提言	2
声の広場	3
企業内技術士の声	5
地域の話	6
私のチャレンジ	7
土木遺産シリーズ (38)	8
ミニ特集	9

中央・統括本部情勢	13
委員会・部会報告	14
支部だより	22
CPD報告	24
青年技術士交流委員会勧誘記事	25
技術士全国大会案内チラシ	26
会員ニュース	26
協賛団体会員	27

「新年の挨拶」

九州本部長 ^{さ たけ} 佐竹 ^{よしろう} 芳郎
(建設、総合技術監理・福岡)



新年明けましておめでとうございます。皆様、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、まず、1月1日にM7.6で、震度7の能登半島地震が発生し、甚大な被害を受けました。11/22現在で、死者462人（うち災害関連死235人は、熊本地震222人を上回る）、住家被害136,590戸となりました。更に、9月21日～23日に、24時間雨量が400ミリ超という観測史上最大の大雨である能登半島豪雨が追い打ちをかけました。20を超える河川が氾濫し、土砂崩れが起きました。10月16日現在で、死者14人、行方不明1人、床上浸水318棟、床下浸水1,055棟です。日本技術士会では、1月2日に「令和6年能登半島地震災害復興支援プラットフォームを設置し、また、北陸本部も支援体制の設置をし、活動を始めました。

次に、2024年度から国土交通省九州地方整備局の新技术活用評価会議（委員会）に、日本技術士会九州本部より新規に委員を送り出すことにしました。西井康浩氏を委員に選びました。その委員を支援するWGメンバー11人も作りました。既存の近畿地方整備局と合わせ、2024年度から関東・中国・九州地方整備局に日本技術士会から新委員を送り出しています。これは、統括本部の技術士資格活用委員会からの要請があり、技術士会の社会貢献及び知名度向上の一環として行うようにしたものです。

また、10月26日の第3回CPDの中で、2年ぶりに、技術士論文発表大会を行いました。6つの論文が発表されました。1人当たり20分間の発表でしたが、力作揃いで拮抗していました。その中で、木下 哲治氏（建設部門）の「九州地方初 公共工事における土木構造物への建設用3Dプリンター活用の効果検証」が最優秀賞を受賞しました。今後も技術士論文大会を開催していきたいと思います。

それから、全国持ち回りで開催している内閣府等主催の第9回防災推進国民大会「ぼうさいこくたい2024 in熊本」が、10月19日～20日に熊本城ホール、熊本市国際交流会館、花畑広場で開催されました。出展者数は400団体、来場者数は18,000人で、両方とも過去最多と盛況でした。日本技術士会九州本部は、花畑広場で屋外展示にテントで参加し、防災クイズ、マイタイムラインや体験型展示（液状化体験等）などを実施し、来場者数は約1,000人と多く好評でした。

新年度の主な取り組みとしては、第51回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）を、熊本城ホールで2025年10月25日（土）～28日（火）に開催します。全国大会は、九州本部の全国大会実行委員会等で準備を十分に進めていき、大成功させたいと思います。

最後に、本年も、会員の皆様方の技術士会活動での活躍を祈念しまして新年の挨拶といたします。

所属：株式会社新英コアテクニカ
(E-mail: satake-yoshiro@ina.bbq.jp)

歴史を学ぶ世界の文化遺産

なかの ゆきお
仲野 幸男
(建設・福岡)



1. はじめに

これまで海外へは25ヵ国程旅行してきた。初めての渡航は1974年に海外勤務で中東イラク共和国に赴任した時だった。イラク第2の都市バスラから約70kmに位置するウム・カッスルという町に港湾施設を建設するためだった。夏場の気温は50℃を超え、時折発生する砂嵐(sand storm)で視界が著しく低下するなど環境の厳しい現場に2年間勤務していた。

2. メソポタミア文明との出会い

イラクはチグリス川とユーフラテス川流域に生まれた古代四大文明の一つメソポタミア文明の地であり、休暇を利用して4000年以上前(日本では縄文時代)の世界最古の王家の墓「ウル」、古代メソポタミア文明の中心として栄えた都市「バビロン」、イラクで最も重要な遺跡の1つとされる都市遺跡「サーマッラー」等を観光することができた。また、5000年以上の歴史を持つ遺跡物が展示されているバクダードのイラク国立博物館(2003年のイラク戦争の騒乱に乗じて約1万5千点の像などが密売目的で略奪された)はメソポタミア文明を知るうえで貴重な体験になった。

3. 海外旅行の目的

会社を定年退職してからようやく世界各地を旅行することができた。観光では日本では体験できない文化や地理、歴史そして自然が放つ景色、絶景や秘境など感動や癒しを感じる人が多い。これまで旅行した中で、1.エジプト、2.トルコ共和国、3.イタリアの文化遺産に焦点を当てながら紹介したいと思う。

4. エジプトの文化遺産

エジプトのピラミッド・スフィンクスは誰もが知っている遺跡だが、ナイル川流域に点在する遺跡群として、アスワン・ハイ・ダム建設で水没を免れたラムセス2世を祀った「アブシンベル神殿」、ナイル川西岸の岩山の谷にあるツタンカーメンの墓で知られる「王家の谷」、約2000年にわたり増築された「カルナック神殿」は世界最大の神殿であり感動も桁違いである。「ルクソール神殿」の塔門、「コムオンボ神殿」のホルス神とセベク神を祀る二重神殿や列柱室は見どころ満載である。「ホルス神殿」は高さ36mの巨大な第一塔門があり、その前に鎮座するハヤブサのホルス像が特徴である。切り立った断崖

の下に建設された太陽神アメンラーを祀る葬祭殿「ハトシェプスト女王葬祭殿」など、いずれもエジプトを代表する印象深い遺跡である。

5. トルコの文化遺産

トルコ共和国はボスポラス海峡を挟み西洋とアジアにまたがる国で日本人には非常に友好的である。トルコを代表する観光地は「カッパドキア」である。キリスト教徒がイスラム勢力の弾圧から逃れるために地下に住み信仰を深めていった巨大地下都市や岩窟住居及び「妖精の煙突」や「キノコ岩」と呼ばれる多種多様な奇岩群が不思議な光景をつくり出している。そのほかギリシャ文明時代の最大級の「エフェソ遺跡」(117年に造られた2階建てのセルシウス図書館が有名)、炭酸塩と石灰を含む温泉水が段々畑の形状に沿って流れ、白く美しい棚段の風景をかもし出す「パレッカム」はトルコのもっとも有名な文化遺産である。また、イスタンブールの旧市街には多くの歴史建造物があり、中でもオスマントルコ時代に建てられたブルーモスクは巨大なドームと6本の尖塔が特徴的で世界で最も美しいモスクとして誰もが訪れる有名な場所である。

6. イタリアローマの文化遺産

世界で最も人気のある観光地は「イタリア」である。特にローマ帝国として地中海一円を統一し、空前の繁栄を遂げた都市ローマが文化遺産の宝庫として高い人気を誇っている。ローマを代表する観光地、古代ローマ帝政期に建設された巨大円形闘技場「コロッセオ」、古代ローマの中心だった市民広場「セプティミウス・セウェルス帝の凱旋門とフォロ・ローマーノ」、世界宗教の総本山バチカン市国の「サンピエトロ寺院」。寺院の中は柱や壁の豪華な装飾と、黄金の天井に圧倒され全てが輝いて見える。ヴェスヴィオ火山の大噴火による火山灰で埋没した古代都市の「ポンペイ」など必見である。

7. おわりに

旅行を通して得られたことは、すべてがリアルであり五感で感じる大きな感動である。実際に自分の目で見た情報は真実であり、それが新たな発見やアイディアにつながっていく。日常社会(仕事)において、取得した情報を活かす、それを社会に反映できることが重要になってくると考えます。

所属：株式会社ファインテクノ
(E-mail: yukio-n@kaw.bbq.jp)

富山県への 災害派遣報告

なか せ さとし
中瀬 聡

(建設・水産・総合技術監理、CPD認定、長崎)



1. はじめに

令和6年1月1日に発生した能登半島地震の復旧事業等に従事するため、地方自治法第252条の17の規定に基づいて7/8～8/31の期間に富山県に派遣され、新湊（しんみなと）漁港の復旧事業を担当しました。私自身は東日本大震災の災害復旧として福島県に派遣されて以来の2回目の派遣となります。

2. 新湊漁港の概要

新湊漁港は富山湾の中心部である射水市に位置する第3種漁港です。第3種漁港とは「利用範囲が全国的な漁港」で、全国の2,774漁港のうち114漁港しかなく（令和6年4月1日時点）、富山県内には新湊漁港と氷見漁港の2漁港のみです。新湊漁港の港勢として、平成28年には富山県全体の陸揚量の約26%、陸揚金額では約37%を占め、1年を通じて多くの魚介類に恵まれています（春：ホタルイカ、夏：シロエビ、秋：紅ズワイガニ、冬：ブリ）。

能登半島地震では最大震度5強を観測し、約80cmの津波も観測されました。幸いなことに津波による施設被害はほとんどありませんでしたが、地震動による施設被災が多くありました。新港漁港は1級河川である庄川の河口部に位置し、基礎地盤が砂質系の土砂であることから特に液状化による被害が大きく、液状化による噴砂のほか舗装のひび割れや通行の支障となる段差が発生しました。しかし、関係者の早急なご対応により1/4には暫定復旧し、1/6には仮舗装をするなど応急復旧が行われ、最低限の利用は可能となっていました。

3. 派遣職員の業務

新湊漁港では多くの漁港施設が被災していましたが、水産庁の災害査定官が現地で復旧に必要な査定額を決定する災害査定について、6月中には対象となる15施設すべてで終わっていました。加えて国費での災害復旧の対象外となる単独災害復旧事業の対象となる施設も21施設あり、これら36施設を富山県職員1名と長崎県からの派遣職員2名で復旧す

ることが主な業務でした。

4. 苦労した点

着任後まず行ったのは現場確認です。私の勤務地は富山県内に4つある土木センターの1つである高岡土木センターであり、現場である新湊漁港までは車で約20分でした。すでに災害査定は終わっていたものの、工事発注にあたってどのような順番で施工するか、施設利用者である漁協等の意向を踏まえて施工の制限がないか等について現地を確認しました。

現地で驚いた点としては、潮位差がほとんどないという点でした。土木センターに帰って台帳を確認したところ朔望平均満潮位（H.W.L.）が+0.5mしかありませんでした。長崎県内ではおおよそ+3.0m程度が標準的であり、最も低い大村湾でも+0.9mです。なお、有明海が日本最大の干満差があり、長崎県内でも有明海に面する漁港では+5.0m以上となっています。今回の災害復旧工事は多くが陸上工事のため潮位はあまり関係ありませんが、海上工事の際には潮位が施工上の条件として非常に重要となります。

また、積算システムが長崎県と異なっているという点も苦労しました。私自身工事発注を行うのが6年ぶりであり、CADや積算システムの扱いに不安がありましたが、幸いなことに福島県と富山県が同じ積算システムであり、初めて扱うシステムではなかったため早めに慣れることができました。

5. 成果・その他

関係者のご協力もあり、8月末までには大部分の工事を発注できました。派遣期間は2か月という短い期間ではありましたが、何とか最低限の成果を出すことができ、微力ではありますが富山県の復旧に貢献できたものと考えています。

生活環境の面としては、公舎として比較的地震被害が少なかった高岡市内の民間のアパート（職場まで徒歩30分程度）に入ることができ、公舎周辺には駅やコンビニ等があったため、生活面では何も不自由はありませんでした。

来年には復旧が完了すると思われるため、改めておいしいものを食べに旅行に行きたいと考えています。この記事をご覧の皆様も旅行の行先に富山県をはじめ北陸地方をご検討いただければと思います。

所属：長崎県水産部漁港漁場課

(E-mail: s.nakase@pref.nagasaki.lg.jp)

中年の危機を転機に

こばらい ひろゆき
小拂 裕之
(建設・大分)



1. 四十歳、中年の仲間入り

昨年四十歳を迎え、めでたく中年の仲間入りを果たしました。「四十にして迷わず」という言葉がありますが、私には全く当てはまりません。むしろ、「四十初惑」と言うべきか、迷いや戸惑いを感じる場面が以前より増えてきたように思います。特に、数年前に独立したことをきっかけに、これからの進むべき道を改めて考える機会が増え、時折、迷いを抱くこともあります。

独立当初は、自分で選べる働き方と新しい挑戦の機会を手に入れ、力を発揮できる場を得たことで、理想のキャリアを築き始めたという充実感がありました。周囲の期待にも応え、貢献できる環境に喜びを感じていました。しかし、40代に入り、これまでの実績に対する肯定感が徐々に薄れ、日々の業務に追われる中で、将来について考える場面が増えました。「中年の危機」の到来です。

2. 独立後の期待と現実

独立してからしばらくは、充実した日々が続きました。自分の裁量で働くことを楽しみ、新しい人々や仕事と出会う機会に恵まれていました。これまで積み重ねてきた拙いながらも貴重な経験を頼りに仕事に取り組む日々には、確かな手応えが感じられました。しかし、最近は業務がルーチン化し、新鮮さや挑戦意欲が薄れてきている自分に気付くことが増えました。そして、ふと気づけば、体力の衰えもじわじわと忍び寄ってきています。仕事に没頭しているうちに、いつの間にか目も腰も重くなり、かつてはなんとか頑張っていた徹夜（飲み会含む）も、今では翌日に響くようになりました。また、顧客の期待に応えるために常に学び続ける必要性を感じつつも、忙しさに追われ、学びの時間や意欲を確保するのが難しいと感じる場面が増えました。その結果、自己成長が停滞しているように思うこともあります。しかし、それでも現状を少しずつ改善し、新たな方向性を模索しながら前進していくつもりです。

3. 中年の危機を転機に

こうした迷いや停滞感が増える中年期は、『中年の危機』とも言われています。技術士の皆様にも、同じように悩まれた方がいらっしゃるかもしれません。しかし、見方を変えれば、これはキャリアを見直し、新たな方向性を模索する絶好の機会とも考えられます。特に、技術士会での活動は、新しい挑戦と学びを得られる貴重な場となっています。年上の世代から学んだ経験、失敗の教訓は、納得すると同時に、その再現性に気づき、私の考えを改める契機となりました。また、若手技術者と経験を共有する中で、彼らの新鮮な発想に刺激を受け、新たな視点を得る機会も多くあります。40代は、これまでの知識と経験を基盤に新たなスキルや分野に挑戦できる転換期です。今後も、技術士会での活動を通じて多様な交流を深めることで、視野を広げ、成長を続けていければと思います。

4. キャリアと生活のバランスを求めて

現在は、キャリアの方向性を見つめ直す時期であると同時に、生活面でのバランスを求める必要性を感じています。私は子育て真っ只中ですが、昨今は、世代や性別を問わず、仕事と家庭や育児の両方にしっかり向き合うことが求められつつあります。若手の頃は仕事だけに集中することが許されましたが、人生の局面が変わり、家庭や子育てといった役割が増えると、仕事以外にも時間を割く意識が必要になってきました。こうした二面性を意識し、もどかしさを感じつつも、欲を出さずに仕事と家庭の双方に適切に向き合うことこそが、今の私にとっての最適解なのかもしれません。

また、馴染みのある環境や人との関わりにとどまるだけでは、視野が狭まりやすいと感じることもあります。そのため、異なる分野や技術者との交流は、キャリアの見直しや自己成長のための貴重な刺激になっています。技術士会大分県支部で幹事を務める中で、他の技術者と交流し合い、貢献できる場があることは貴重な機会だと感じています。

まだまだ若手と思いつつも、大分県支部での幹事としての役割を通じ、「支えられる立場」から「支える立場」へと意識を広げ、他者との交流を深めながら自身の成長も図り、これからも充実した日々を築いていきたいと考えています。

所属：株式会社ディアコン
(E-mail : kobarai.hiroyuki@dear-con.com)

企業内技術士の声

技術士会への入会 促進策

とものう さとし
友納 敏氏

(建設、上下水道、総合技術監理・福岡)



1. はじめに

技術士の技術士会（以下、「会」という）への加入率の向上については、会における重要な課題であり、その解決のためには技術士会活動を充実させ、入会のメリットを増大させることが必要であることは、私たちの共通の認識であると思っています。

本稿では主に、若手技術者の準会員としての入会を促し、正会員への移行を期待するということについて、建設部門の技術者の観点で述べたいと思います。

すでに実施済みのさまざまな取組みを十分に理解していない者の思い付きであることをご容赦下さい。

2. 修習技術者や技術士補の認知度向上

①名刺等への明示促進

現在一般的なのは、登録部門を明記した上での技術士の表記ですが、これまであまり明示されてこなかった修習技術者や技術士補についても、明記することで名刺交換の際に目にする機会が増えます。

名刺が制度の広報になると考えれば、そのことで技術士制度の認知度を向上させることができるのではないかと考えています。

②入札等における資格要件への導入促進

発注者が検討する入札制度ですが、入札参加における技術者の資格要件や総合評価における評価項目に、技術士だけでなく修習技術者等が加わると、これらの資格を取得するというモチベーション向上に繋がります。

このことで、技術士制度の恩恵をうける技術者の母数を増大することができると思います。

3. 準会員になることのメリットの増大

技術士会のHPにあるように、準会員においても正会員と同様に7つの入会メリットがあります。このうち、「人脈の形成」、「情報の入手」及び「CPD等による技術研鑽」はとくに若手技術者に享受してもらいたいメリットだと思います。

山積する課題に対して、目まぐるしく進歩する技術をもって対応していくためには、上記のことがとても重要だからです。若い技術者にいろいろなこと

を吸収し飛躍を遂げてもらうためには、会としてこれらの機会（HPのコンテンツ等も含む）をさらに増やしていくことが必要でないでしょうか。

4. 二次試験に向けた知識の蓄積や考察力の強化

準会員となる方の多くは、技術士第二次試験の合格を目指しているものと考えられます。このため、技術士会に入会することが二次試験合格への近道であるということを前面に出しては如何でしょう。もちろん、技術士会は技術士試験の実施機関でもあるので、変に疑われないよう気を付ける必要があり、そこが最大の課題だと思います。

技術士第二次試験では、施設の老朽化、担い手不足、甚大化する災害等、技術者として取組むべき課題への対応を問われます。それに対する様々な取組み、それらを実行した後に生じる新たなリスクや対応などを会の研修会等で議論し、解決する能力を高めることは、二次試験の合格に有用であることは明らかです。

会に入会することで課題解決能力が身につき、所属企業にとってもメリットがあるというアピールがあっても良いのではないかと思います。

5. 技術士会活動への準会員の参画拡大

前記の対策等により準会員数が増大した折には、技術士会活動への参画を促してはいかがでしょう。広報、講習会や見学会等のCPDの企画運営に関わってもらうことで、「2.」で述べた会のメリットも増大します。さらに、会の活動内容の更なる質的な向上や充実が大いに期待できます。ただし、企業内技術者も多いので所属企業の理解が肝要となります。

また、準会員として会で活躍していただいた方には、技術士を取得した際にも引き続き正会員として活動に参画いただき、加入率の向上並びに会の発展に寄与していただければと思います。

6. おわりに

技術士会におかれましては、WEBによる講習会開催など、時代の変遷に即して新たな取組が行われていることに敬意を表します。これからも地方における技術士不足やCPD取得の困難さを克服していくためにも、会の活動はますますその重要性を増すものと思います。

多くの若い技術者が参画し、その考えが会の企画運営に反映され、活動が活性化することを期待します。

所属：エイコーコンサルタンツ株式会社
(E-mail: tomono@eiko-con.co.jp)

地域の話題

熊 本

工業高等学校への 出前講座から

倫理委員会委員 いさみ ひでただ
勇 秀忠
(建設・熊本)



1. はじめに

本誌第139号に地元の工業高等学校での出前講座の原稿を書かせていただいた。

令和6年9月12日(木)に開催できたので、以下に少し、内容および感想を記したい。

2. 出前講座

玉名工業高等学校から正式に「出前講座について(依頼)」が4月初旬に当県コンクリート診断士会に届いた。その目的は、工業教育の充実ならびに生徒の職業観や勤労観の育成を図ることを目指し、出前講座を実施しています。さらに本出前講座は「マイスターハイスクール事業の一環として実施し、具体的にはインフラの調査、診断等」であった。

実習生徒対象は、土木科2年生39名(男子34名、女子5名)である。

診断士会では数回の役員会議を執行し、具体的な内容等の協議から、地元の自治体の協力も必要不可欠であることから、熊本県玉名市土木課に協力依頼を当診断士会からお願いし、高校とも協議した結果「産官学連携事業 玉名工業高等学校 出前講座」、主催：一般社団法人 熊本県コンクリート診断士会、後援：熊本県玉名市役所土木課で実施した。

3. 研修内容

まず、高校での座学では以下の内容でそれぞれの担当診断士が技術的な説明を行った。①橋梁点検について、②非破壊試験によるコンクリートの強度試験とひび割れ深さ測定、③電磁誘導法による配筋状態及びかぶり測定、④電磁波レーダーによる配筋状態及びかぶり測定の説明を約60分行った。その後、バス2台で移動し、全員(39名)を5班体制として順次移動しながら座学項目を全員実習してもらった。特に橋梁点検実習に関しては、安全帯を着用し、高所作業車の作業床に上り、コンクリートのひび割れ幅を生徒一人ひとりがクラックスケールを

使用し、ひび割れ幅を測定した。私も、電磁誘導法によるコンクリート内部の鉄筋の位置や表面からのかぶり(深さ)の測定の説明及び実習を担った。生徒それぞれが実際に機器を使って真剣な表情で取り組んでくれた。



写真-1 座学状況



写真-2 集合写真

4. おわりに

座学挨拶冒頭、子ども達に一番伝えたかったことは、我々技術者が日々業務として携わる橋梁点検等の実務内容などを紹介することで、少しでも、この経験が将来の進路あるいは自らの生きる上での気づきになればとの思いがあった。出前講座と一緒に参加したコンクリート診断士12名は「子供たちの多くの質問(年収など:ここは笑いもあり)や笑顔、加えてその元気な姿に大いに感動した。と一同皆喜んでいた。やったことの意義は大きいと感じている。

所属：株式会社興和測量設計
(E-mail: isami-h@kowa-kk.co.jp)

私のチャレンジ

まつばら君が歩く 人生100年時代チャレンジ

まつばら たけし
松原 武志
(建設・長崎)



1. はじめに

私は建設コンサルタント会社に勤務し、国が発注する工事の発注者支援業務に従事しています。

主な業務としては、河川・ダム・砂防に関し、発注者の立場で工事発注に必要な契約図面の作成、数量計算書の作成、積算システムのデータ入力並びに積算の根拠資料を作成することなどが挙げられます。

2. 私が歩いてきた道

私は工業高校を卒業したのち、民間の建設会社に入社し、7年間土木工事の施工管理に従事しました。主に河川工事や国道の夜間工事に携わりました。

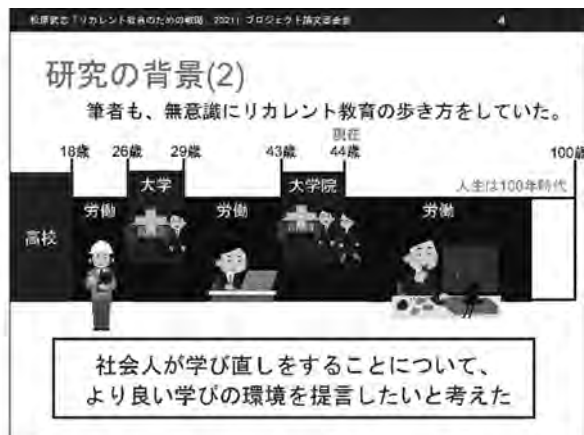
その中で、ISO規定の作成や工事の特記仕様書などの文章解釈に関与していくうちに、文章作成の重要性を認識しました。いろいろと悩みましたが、退職して4年制大学の法学部法律学科で学びました。

大学卒業後、建設コンサルタント会社に入社し、国の発注積算を支援する業務に携わっています。

業務を遂行する中で、「人的資源管理」「生産管理」「企業倫理」「リスクマネジメント」が必要と考え、社会人のまま学ぶことが出来る、九州大学大学院の経済学府産業マネジメント専攻に入学しました。

修了要件となる研究論文のテーマについては、「リカレント教育が普及するための環境整備の提案」としました。たくさんの社会人が、学びたいときに大学等に戻って学び直し、新しい知識をアップデートしてほしいと考えたからです。

下の図は、論文審査会のスライドの一部です。



3. リカレント教育とは

リカレント教育とは、学校教育から離れた後も、生涯にわたって教育と労働を交互に行うといった概念です。1970年代にOECDがリカレント教育を公式に採用したことで国際的に認知されるようになりました。1973年に文部科学省が公表したリカレント教育の報告書では、「循環教育」とも訳されています。

私は、リカレント教育という概念を大学院に入ってから初めて知りました。私の歩いてきた学びが、リカレント教育そのものでしたので、学問的に分類されていることについて、当時とても感動しました。

4. 私のチャレンジ

4-1 現在の取り組み

2024年度のチャレンジとしては、日本技術士会の社会委員会が所管する司法支援技術士に登録しました。裁判所に持ち込まれる紛争については、専門的知見を必要とする場合があります。司法支援技術士は、各裁判所からの専門委員として鑑定人や調停委員の対応をすることになります。自己の知見を総動員し、公益の保護や社会に還元したいと考えたのが、司法支援技術士に登録した理由です。

現在は全体件数が年間平均5件程度と少ないこともあり、まだ私に推薦依頼はきていません。

今後は、紛争が高度技術化し、科学技術に関する専門知識を備えた技術士が、専門家として意見を述べる機会が加速度的に増えていくと考えます。

4-2 今後の取り組み

技術士二次試験でも問われる「コミュニケーション」の分野に興味があります。具体的には、科学技術の専門家と国民の架け橋となる「サイエンスコミュニケーション」の分野に関する研究ができる大学院博士課程（後期）に挑戦し、博士の学位を取得したいと考えています。

その後は、まだ決めていませんが、科学技術というものは、産業構造の変化や社会情勢などにより要求されるスキルや知見が変化していくと考えられます。仕様や工程を重厚長大に詰めずに、不確実性を想定したうえでアジャイル（機敏な、柔軟な）な立ち回りをしたいと考えています。

5. おわりに

私の人生は独自性が強く、ロールモデルになるような歩き方ではありませんが、自分を信じ、楽しみながら全力で100年時代に向かう所存です。

皆様、まつばら君をよろしくお願いします。

所属：株式会社九州建設計画エンジニアリング
(E-mail: matsubarakun@kyudai.jp)

土木遺産シリーズ（38）

捕鯨と築堤、 そして新田開発

長崎県支部長 **山口 昭光**
(農業・長崎)



「技術士だより・九州」第141号の委員会・部会報告で岡田建設部会長が「土木遺産シリーズは私たちの身近にある歴史的な土木施設や過去の災害記録などを掘り起こして紹介する企画」を記されていますので、今回は歴史的な農業用ため池（以下「ため池」）を紹介します。

1. 大村藩と深澤組

皆さんは五島列島近海で捕鯨が行われていたことをご存じでしょうか。「新編大村市史」によると、「大村藩の領内で捕鯨が行われていたのは十七世紀初頭から十九世紀末にかけてで、日本捕鯨の時代区分では古式捕鯨業時代に相当する。五島灘には松島、蛸浦島、崎戸島、江島、平島などの島嶼は東西方向に並び、それらの島に鯨組の拠点（納屋場）が置かれ漁場を構成した。五島灘漁場は専ら春期に北上する鯨を捕獲する春浦の漁場という特徴を有していた。」とあります。その代表格が初代深澤儀太夫勝清、二代目勝幸、三代目重昌の深澤組でした。深澤組の創業は1647（正保4）年とされています。

2. 深澤組が行った公共事業

深澤組は、捕鯨で得た巨万の富を大村藩の要請もあり、藩財政や社会事業に貢献し、寺院の建立などを行うとともに、干ば



図1 五島灘漁場と周辺の主な捕鯨拠点

つの被害が多かった領内の各地にため池を築造し、かんがいの便を図りました。その中で最大の事業が野岳大堤の築堤でした。深澤儀太夫勝清は、捕鯨事業で得た膨大な資金（4,200両）によって、1663（寛文3）年に野岳大堤を築いて新田を開発しました。深澤組が築堤したため池一覧（記録が残る）を表1に示します。地形図を添付できませんので国土地理院地図で探してみてください。

3. 農業用ため池とは

ため池は全国に約15万か所あり、主に農業用水を確保するために水を貯え、取水設備を備えた人工的に造られた池のことです。ため池は、その形態に

表1 深澤組が築堤したため池一覧

市町	堤名	貯水量（千㎡）	堤長（m）	堤高（m）
大村市	野岳大堤	1,150	170	18.7
	赤似田堤	104	93	8.2
	本倉堤	1	46	2.9
東彼杵町	綿打堤	150	109	14.3
	大田代堤	77	112	11.5
	葦堤	397	134	12.9
	三井木場堤	248	235	10
	鹿ノ丸堤	175	119	10.4
	中堤	166	177	8.8
	瀬滝堤	4	28	2.7

より「谷池」と「皿池」に区分されます。谷池は山間部に多く見られる形態で、谷の downstream 側に堤を設けて川をせき止めるようにして造られた池で、皿池は平野部に多く見られる形態で、窪地の周囲を堤で囲むように造られた池です。構造は、水を貯める「堤体」、洪水を安全に流下するための「洪水吐」、農業用水を取り入れるための「取水施設」などから構成されます。また、池底にたまった泥の除去、水質改善や池の点検、外来生物の駆除などを目的に数年に一度「堤干し」が行われます。

4. 野岳ため池

野岳ため池は多良岳県立自然公園区域内にあり、農業の礎を担う貴重な水源であるとともに特色ある伝統・文化景観及び豊かな生態系を育む地域の財産として大切に守られていることを評価され、2020年「ため池百選」に選定されています。築堤から350年を経過し、この間取水施設等は改修されてきましたが、1821年の改修以来、192年ぶりに堤体・取水施設・底樋等の平成の大改修が行われ2016（平成28）年3月竣工しました。地元では毎年、深澤儀太夫勝清の偉大な功績を讃えしのぶ「深澤祭」がとり行われ、その徳は今も語り継がれています。

5. おわりに

平成30年7月の豪雨により多くのため池が決壊し、人的被害を含む甚大な被害が発生しました。



写真1 野岳ため池

ため池の約70％は江戸時代以前に築造されたと推測されています。一日も早く多くの農業用ため池の防災工事等が進み適正な維持管理が望まれます。

参考：「新編大村市史」、「農林水産省HP」、「県央振興局より写真提供」

所属：株式会社高松設計コンサルタント
(E-mail: a.yamaguchi@ougis.co.jp)

ハンターへの道

なかぞの けんいち
中園 健一
(建設・福岡)



最近、北海道のヒグマ捕獲問題でも話題にのぼるハンターですが、今日は「どうすればハンターになれるの?」という話題を皆さんにご提供いたします。

いわゆる「ハンター」と呼ばれる猟師や狩猟家は網やわななどの猟法も含まれますが、ここでは猟銃を使用する場合の手続き等についてご紹介します。

1. 取得が必要な免許・許可について

猟銃を使用するハンターになるためには、大きく分けて以下の2つの手続きを経なければなりません。

- ① 「狩猟免許」の取得(都道府県知事)
- ② 「猟銃所持許可」の取得(公安委員会)

2. 取得にかかる期間はどれくらい?

「狩猟免許」と「猟銃所持許可」は同時進行で取得します。期間については、講習会や試験、また手続きのため所管窓口へ相当の回数(10回以上)足を運ばなければならないため、人それぞれにはなりますが、私の場合、まあまあ頑張って半年ほどかかりま

した。

3. 費用はどれくらい?

取得にあたっては、講習会や試験代、モロモロ申請手数料の他に、医師の診断書や射撃教習の弾代なども含めると総額で約11万円ほど(高い!)がかかります。(もちろん散弾銃などの道具類は別です)

4. ハンターになるための心構え

上記のとおり、ハンターになるためにはそれなりの時間とお金がかかります。また、当然ではありますが、銃を所持するということは、たいへん大きな社会的責任を背負うことにもなります。そのため、明確な目的と、絶対に事故を起こさない覚悟が必要です。

また、余談ですが、銃所持許可手続きでは身辺調査にかなりの時間がかかります。家族・友人・知人への聞き取りもあります。普段から「あいつは変な奴だ」と思われないう、人付き合いも大事にされた方が良くと思います。人の事は言えませんが・・・

5. 私自身のハンターとしてのこれから

人の暮らしと自然との共生に尽力していきます。また、いずれ機会がありましたら、実際の狩猟やジビエ料理なども紹介できたらと思います。

所属：有限会社エーシーソーイング
(E-mail: nakazono@ac-s.jp)

富士登山

ほんだ まこと
本田 誠
(建設・北九州)



まさかあの日までは自分が登山に興味を持つとは思いませんでした。人生に一度は富士山に登ってみたいと思われている方は多くいらっしゃるのではと思います。ご多分に漏れず、私もその一人でした。しかしながら、十数年前に家族で高尾山に登ったくらいで、本格的な登山経験は全くありませんでした。そんな登山経験ゼロの私が、一度は富士山に登ってみたいと昨年強く思うようになり、まだ身体をしっかりと動かすことができるうちに挑戦すべく、今年の7月末に富士山登山を計画しました。ただ、初心者ですので、何をどうすればよいのか、何を揃えたら良いのかも全くわからず、とりあえず初心者でも安心と謳っていた富士登山のバック旅行を予約し、そこに記載されていた初心者用のフル装備レンタルを迷わず申し込みました。6月に申し込

みしてから、あっという間に登山当日。静岡空港からジャンボタクシーで富士宮口5合目へ移動し、期待と不安が入り混じる中、登山開始。宿泊先の7合目までは周りの景色を楽しむ余裕がありましたが、仮眠後の山頂までの道程は空気が薄くなるのを体感し、息を切らしながらの登山でした。無事に登頂し、天気にも恵まれご来光を拝むことができました。ガイドの方が登りの際に「下山するまでの体力を考えて無理せず登山してください」と再三仰っており、山頂が最終目的ではなく無事に下山するまでが登山だということを改めて認識させられました。当たり前のことだとは思いますが、仕事でもつい目の前の目標のみばかりを見がちです。失敗したときのリスク管理、撤退も念頭に置くことが必要であることを改めて考えさせられました。ガイドの方の適切なペース配分やアドバイスによって、高山病になることなく、無事に完登でき、同時に登山によって得られる達成感や爽快さ、そして自然の素晴らしさに魅了されました。その後は、すっかり登山に魅せられ、週末は北九州周辺の低山に足を運び、自然に癒やされながら楽しんでいきます。

所属：日本鉄塔工業株式会社
(E-mail: m-honda@jsteam.jp)

自家製小麦粉で パンが食べたい

ふちかみ こうじ
淵上 浩司
(建設・佐賀)



私の趣味ではありませんが、妻の趣味はパン作りです。パン教室に通い、家でも食パンをはじめクロワッサンなどのパンを焼きます。しかし、昨今の物価高騰のあおりを受けてパン用の小麦粉も価格が上昇しているようで、妻から「自家製の小麦粉でパンを焼きたいからパン用の小麦を作ってほしい」とリクエストを受けました。

私は兼業農家で冬作物として小麦を栽培しています。栽培しているのはシロガネ小麦という主に麺用の品種で、11月中旬～下旬の晩秋に種を播き、6月上旬に収穫する作型が主流です。調べてみると、このシロガネ小麦はタンパク質量（グルテン量）の関係でパン用にはあまり適さないようでした。そこで、自家用に秋播きのパン用小麦を入手して、休耕田で試験的に栽培することにしました。

幸い並行して作付けしているシロガネ小麦と栽培

の手間はあまり変わらず、初めてにしては出来の良い穂が実りました。

小麦の収穫・乾燥を経て、次は製粉作業に入ります。県内で小麦の製粉所を見つけられなかったため、仕方なく家庭用製粉機を購入しました。この時点で、市販の小麦粉を買った方が良いのではないかという思いが頭をよぎりましたが、妻の手前もう引き返せません。製粉機で小麦を細かく粉碎して粉状になったものをさらにふるいにかけて細かくしていきます。

このような作業を経てやっとできた小麦粉を使って、妻はいよいよ食パンを焼きました。しかし、最初からそううまくいくはずもなく、出来上がった食パンはまるでフランスパンのようなガチガチの食感で、おいしいと言えるものではありません。発酵過程であまり生地が膨らまなかったようです。製粉前の小麦の水分量が低すぎたのか、ふるい目の開きが大きすぎたのか、完全に表皮を取り除くことができなかったのが原因ではないかと考えています。

自家製小麦を使ったおいしいパンが食べられるまで、まだまだ試行錯誤の日々は続きそうです。

所属：株式会社親和テクノ

(E-mail: k-fuchikami@shinwa-techno.co.jp)

長崎街道を歩く

こが よしと
古賀 義人
(建設・長崎)



最近の私の趣味は歩くことです。自宅の周りには山や川が近くにあって、季節の花や鳥を楽しんでいます。鳥は、ダイサギ、カワセミなど珍しい鳥も見られます。花も多くの種類が咲き、秋にはヒガンバナが咲き乱れますし、夏の早朝には夜しか咲かないカラスウリの白い花がまだ開いています。

1. 長崎街道は、長崎から小倉までの約220キロの道程で、途中25の宿場が置かれていました。自宅の近くを通っており、時々歩きますし小倉まで歩いたこともあります。全国に張り巡らされた街道の中で異国文化を伝達する道として特異な機能を果たしました。世界情勢の情報は幕府の対外政策の基となり、知識人の世界観に大きな影響を与え、広まった医学知識は多くの人を救ったことでしょう。また、砂糖は街道から運ばれ途中の地域にお菓子の文化を広めました。出島のオランダ商館長は将軍に謁見するため江戸参府に毎年行っていました（4年に1回の頃

も）。随行する商館員や役人などで100人程になることもあったそうです。献上品としてのゾウもここを歩きました。使われなくなって百年以上たちますので、ダム、道路やその他の工事により消滅したところもありますが意外と残っています。印象に残っているのは、小倉から順に、曲里の松並木、木屋瀬宿、内野宿、冷水峠、佐賀宿、松原宿、鈴田峠、井樋尾峠、日見峠などです。松並木は日差しを防ぐため街道全線で多く植えられていたようで、これを復元しようと私の中学の同級生が頑張っていました。残念なことに彼はなくなりましたが、松並木は街道沿いのいたるところで元気に道案内をしています。

2. 長崎奉行は、天領のこの地を統治するために置かれた奉行所です。主従の関係のようですが、大事に際しては協力して解決に当たりました。19世紀初めイギリス軍艦フェートン号が港内に侵入したときは協力して事に当たりました。

3. 出島は、江戸時代世界への唯一の窓で復元がほぼ完了しました。街道もなんとか健在です。奉行所西役所は明治になり取り壊され県庁がありましたが移転した後更地のままです。西役所が復元されると江戸期に大きな影響を与えた3者が復活します。出島から西役所を通り街道を歩きたいです。

(E-mail: vsdsdbdfb@sdssfsd.co.jp)

ミニ特集 『趣味・特技、社会貢献、心に残る言葉・出会いなど』

私のチャレンジ 無事終えた

倫理委員会委員 いさみ ひでただ
勇 秀忠
(建設・熊本)



技術士だより・九州第139号「私のチャレンジ」に記した。今年のチャレンジ（出前講座と自費出版）が遂行できた。

まず、熊本県立玉名工業高等学校（産学官連携事業）においては、地域の話題で詳細は記したが、熊本日日新聞記事にも「コンクリート診断士驚きの技」として紹介していただいた。特に、高所作業車に乗っての壁面のひび割れの有無の確認、ハンマーでたたいて衝撃波の速度を測ったりしてコンクリートの強度を調べた。との記事に正直、嬉しくなったし、私のいい思い出にもなった。

次に自費出版については、5回の打合せを行った。表紙の写真やタイトル（副題）、目次の構成など行った。少し、紹介したい。

第1部 投稿集（熊本日日新聞「読者ひろば・おと

この目・随想」）、第2部 論文集、コンクリート工学会で採択された論文3篇を納め、次に（公社）日本プラントメンテナンス協会、月刊誌「プラントエンジニア」、＜特集＞「今、あらためて技術者の倫理について考える」への投稿文を、第3部には、技術士だより・九州、「私の提言」3篇である。

自らのライフワークでもある地元新聞への投稿記事はその時々で綴ったものであり、記事内容で当時を思い出すことができ、私の財産でもある。私事だが、令和7年4月には、天草の実家に帰る予定である。86歳の母が一人で生活していることから正直なところ心配もあり、帰る潮時と判断した。

退職ではなく、営業所長として席は置くことにして、70歳まではマイペースで頑張れればと思う。田舎の友人・知人から早速、組長や区長の話が出るが、今しばらくは自身の放送大学大学院文化科学研究科（修士課程）修士科目生として研さんも続けたい。いま、「人的資源管理」科目を受講中であり、年明けには試験が待ち受けている。

ただ、加齢に伴い？手足のしびれがどうしたものかと悩みながら、薬局での相談が増えている。

株式会社興和測量設計
(E-mail: isami-h@kowa--kk.co.jp)

絶滅危惧植物 タコノアシの保全活動

あさ しんいち
阿佐 真一
(建設、総合技術監理・宮崎)



私は大淀川为天満橋下の砂州に生息する絶滅危惧植物タコノアシの保全活動に参加しています。

大淀川は宮崎・鹿児島・熊本の3県にまたがる九州でも有数の一級河川で、この流域内には約60万人が生活して、様々に川を利用しています。

しかし水質・水量が悪化し、昔のような人々が遊び親しんだ水量豊かで清らかな清流の面影が失われていました。このような大淀川を昔の姿に戻そうと、流域内の住民や団体が参加して、NPO法人大淀川流域ネットワークが2004年に発足し、今年の4月には20周年を迎えたところです。

このNPOでは様々な活動が行われていますが、私が会員として特に参加しているのが、下流域での絶滅危惧種の保全活動なのです。

参加するきっかけは、私が25年前の県職員時代、市役所上流の大淀川に架橋する天満橋の下部工施工

を担当したことです。左岸側から2橋脚目は当時砂州が形成されていた箇所、平水位から約30mの深さまでケーソン基礎による施工をしました。この施工により砂州の形態が大きく変化しましたが、その後、何度かの出水により砂州もワンドも徐々に復元し、水辺の環境が改善していきました。

現在、大淀川流域ネットワークでは、このワンド内で絶滅危惧植物タコノアシの保全活動を年に数回、多くのボランティアが参加して行っています。夏には白い可憐な花を咲かせ、晩秋には紅葉するタコノアシが水辺一帯を被うようになっています。また、この水辺一帯を散策できるようにと国道220号で植え替えとなったワシントンパーム伐採材を加工して木道散策路とする整備も行われています。

私もこの保全活動に参加する都度、中洲に立つP2橋脚を目の当たりにして当時の施工の苦労を思い出しながら、タコノアシの移植やタコノアシの周りのヨシアシの草刈りで心地よい汗を流しています。

自然が豊かで生物多様性に富み潤いをもたらす良い川を次世代に引き継ぐことを目指す大淀川流域ネットワークの会員としても、微力ながら活動に協力していきたいと思っています。

所属：日向測量設計株式会社
(E-mail: asa.s@hyuga-c.co.jp)

還暦からの楽しみ ～旅と俳句～

はまびら ひろみ
濱平 浩己
(建設・鹿児島)



「藤の花 親子でつむぐ 髪かざり」佐賀の唐津城で投函したこの俳句が、入選して一年間、唐津城に展示され、記念品までいただいた。これを、機会に自称「旅する芭蕉」と家族にアピールしては、好き勝手に旅をしながら句作している。若いころは、「遠くにいきたい」という思いが強く、遠方へと足を延ばしてきたが、還暦近くになり、夫婦で旅するため、遠くでなく楽な旅へとシフトされてきた。最近、京都周辺がお気に入りであることから、旅をいくつか紹介したい。

まず、4月の桜が咲いている時に、琵琶湖大津から京都市の蹴上まで琵琶湖疎水クルーズを楽しんだ。琵琶湖疎水は、明治時代に京都と琵琶湖を結ぶために建設された運河で、疎水の設計や建設技術にふれることができる貴重な近代化産業遺産だ。特に第一疎水の第一トンネルは、当時日本最長トンネルで、工事のため2つの立坑が建設され、入り口には、伊

藤博文が揮毫した扁額（石の額）が掲げられている。また、第二疎水の建設には、鹿児島の偉人西郷隆盛の息子である西郷菊次郎（第二代京都市長）が事業推進に心血を注ぎ、京都の近代化に大きく寄与している。そして、ここの旅の最後に両側桜満開の蹴上インクライン（疎水上下流の船溜まりを結ぶ傾斜鉄道）を歩きながら一句

「桜舞う 愛しき君の 香りたつ」

次は、11月末の紅葉真っ盛りの折に、嵐山・嵯峨野を旅した。保津川渓谷やトロツコ電車も楽しんだが、お目当ては、天龍寺と常寂光寺である。天龍寺は、足利尊氏が創建した禅寺で、その曹源池庭園は、いつまでも見ていたい庭園で、時間を忘れさせてくれる空間である。また、法堂にある雲龍図は、龍の目から大きなエネルギーをもらえる。天龍寺の後に、常寂光寺を訪ねると静寂に満ちて清らかな紅葉が待っている。そこで、一句

「寂光に 君の笑顔と 恋紅葉」

最後に、鹿児島市も錦江湾に浮かぶ桜島を望む風光明媚な歴史と文化のまちである。いっど、おじゃったもんせ。（ぜひ、いらしてください。）

所属：鹿児島市役所 市民局 谷山支所
(E-mail : hamabira-h67@city.kagoshima.lg.jp)

なんさつ 南薩の魅力と半島再興

くまさき ひろかず
隈崎 博一
(建設・鹿児島)



南薩とは、鹿児島県の薩摩半島南部のことで、南さつま市、南九州市、枕崎市、指宿市の4つの市があります。

中でも南さつま市は、地理的に大陸に近いことから、近世まで、坊津は日本の三津の1つ、交易港として名が知られており、リアス海岸の深い入江は、移動手段として海路が主流であったころには、遣唐船、倭寇、大陸との密貿易船、北前船などとも繋がりがあり、現在の静かな港で当時の隆盛に想いを馳せるのも楽しいものです。

内陸に目を移すと、薩摩半島西側には南薩鉄道が現在の日置市伊集院から枕崎までを結び、枝線も知覧まで鉄路が伸びていた時代があります。残念ながら1984年に全て廃線となっていますが、一部は自転車道として利用できますので、鉄道の歴史に興味深い方には、廃線跡巡りも一興です。

このようにかつて海路、鉄路が充実した地でありましたが、現在の人流・物流の主流である高速道路網については不十分な状況です。

長い歴史において半島地域は、海からのアクセスの方が容易であり、街の発展を形成したと考えると本年大きな地震が起こった能登半島も同じと思われる。同じ半島地域として信頼性の高い道路の存在が避難、救援、その後の復興にいかに関心を感じたところだ。

このようなことから、南薩地域としては高規格道路として、南薩縦貫道に続いて、薩摩半島横断道路の早期整備を要望しています。

薩摩半島南端の南薩地域の4市は、雄大な景色、温泉、歴史、農業、漁業の大きな魅力を有しており、新たな横軸が今まで実現できなかった観光ルートなど新たな流れを生み出し、半島再興、地域が連携を強め活性化する可能性を秘めています。

新幹線開通以来、気軽に鹿児島の地を訪れる人は増えていると思いますが、さらに、すんくじらの南薩地域にも足を運んで頂き、皆さんにも新たな魅力を発掘してほしいと思います。

所属：南さつま市役所
(E-mail : e-kensetsud@city.minamisatsuma.lg.jp)

中央・統括本部情勢

理事会

理事会報告

副会長・理事 たぬま かずお
田沼 和夫
(フェロー・建設、総合技術監理、CPD認定・福岡)



2024年度第4回理事会が2024年11月11日（月）14：00から18：00まで開催されました。審議事項は5件で報告事項は16件でした。

審議事項は

1. 名誉会員推薦規則の改定について
2. 技術士CPD管理運営マニュアル名称変更に関する規定修正について
3. 委員会委員等の異動について
4. 会員の入会等について
5. 統括本部職員の給与及び常勤理事の報酬の変更について

報告事項は16件でした。

1. 第50回技術士全国大会(北海道・札幌)について

2. 全国大会の開催について
3. IPDシステムの構築に係る推進体制の整備について
4. 令和6年度技術士第二次試験筆記試験結果について
5. 技術士試験受験料等の見直しの検討状況について
6. 技術士CPD実績管理登録状況について
7. 技術士管理運営マニュアル改訂案について
8. 登録グループの追加について
9. 月刊「技術士」制作の手引きの変更について
10. 地域組織における役員の責務に関する手引きの変更について
11. 中部本部の運営における個別事項に関する手引きの変更について
12. 日本技術士会DE&I推進宣言（仮称）の検討について
13. 外部理事・外部監事の設置について
14. 外部委員会委員等の委嘱について
15. 常設委員会等報告について
16. 2024年度業務状況報告について

九州本部役員、会員のご支援に感謝申し上げます。

所属：産業開発コンサルタント株式会社
(E-mail：tanuma2@bronze.ocn.ne.jp)

地域本部長会議

2024年度第2回 地域本部長会議報告

九州本部長 さたけ よしろう
佐竹 芳郎
(建設、総合技術監理・福岡)



2024年9月19日（木）にぎたつ会館（松山市）で開催した2024年度第2回地域本部長会議の概要を報告する。

【統括本部より説明】

1. 役員候補者選出選挙日程については、11月に選挙管理委員会が決定し、月刊「技術士」1月号に掲載する。
2. 技術士CPD実績管理登録で、CPD認定要件のうち、始めの2年間100時間の条件は恒常化する。

【地域本部よりの審議事項及び意見要望等】

1. 技術士全国大会準備・手続きについて標準なやり方を示して欲しい。(北海道)
→文科省関係の対応は基本的に統括本部マター。議員連盟の参加スタイルは、名目は「来賓」であるが、位置づけは「視察」となる。文科省、議連にたいして関係案内文書は出していない。大会誌の寄稿依頼文は会長名で出す。(統括本部)

2. 地域本部における部会の設置についての考えを聞きたい。(北陸)
→あくまで規則は「努めるものとする」との努力義務であり、単独部門での地域部会設置を否定するものではない。(統括本部)
3. CPD行事の新たな取り組み（サブスク）に関する考えはどうか。(中国)
→サブスクの導入そのものは制度的に問題ないので、各地域本部の裁量で実施してもらって構わない。CPD関連行事に対する補助は、有料（受益者負担）が原則であるので注意してもらいたい。(統括本部)

【報告事項】

1. これまでに技術士会の活動がマスコミ（新聞・TV等）に取り上げられた事例について情報提供をいただきたい。マスコミが取り上げた理由についても聞きたい。技術士の認知度向上など今後のPRに活かしたい。(小林副会長)
2. 西日本技術士研究・業績発表年次大会の今後のローテーションは次のとおりにする。2023四国→2024近畿→2025中国→2026中部→2027九州→2028四国（関係5地域本部長で調整）。来年度は、2025年11月15日（土）～16日（日）に広島市で開催する。

所属：株式会社新英コアテクニカ
(E-mail：satake-yoshiro@ina.bbq.jp)

統括本部総務委員会

総務委員会報告

総務委員 にし い やすひろ
西井 康浩
(建設、フェロー、CPD認定、博士(工学)・北九州)



2023-25期の第8回総務委員会と同地域小委員会が、10月16日に開催されました。今回も対面型とリモート型のハイブリット形式で開催され、私は九州本部会議室からWebで参加しました。

まず地域小委員会では、主に次の2議案についての意見交換が行われました。

1-1.名誉会員規則の改訂

地域本部の部会を対象とするが、県支部の部会は評価点から外すことになりました。理由として、「地域組織の設置運営に関する規則」の第2章第24条では地域本部だけを規定対象としており、関東甲信地域を含め、県支部においては部会を公式な機関として扱っていないことに起因します。

1-2.地域組織役員の責務に関する手引きの改訂

これは、地方自治体や民間企業等が本会と他の法人を混同し誤認してしまうと、本会の信用失墜に繋がることから、役員と他の法人の役員を兼務する場

合、双方の立場を利用して業務活動することは許されないに改めるといふものです。

続いて総務委員会では、次の3議案の審議および報告がありました。

2-1.地方整備局技術評価支援活動に関する規則と手引きについて

活動実態として、統括本部、近畿本部、中国本部、そして九州本部の4組織の実績が報告されました。この組織、将来は常設委員会の下に置くことも可能であるが、当面はワーキンググループ等で活動することが確認されました。また支援活動に関わる謝金について審議されましたが、これについては地域本部の裁量に委ねられ、総務委員会はこの決定に直接関わらないことが確認されました。

2-2.月刊『技術士』制作の手引きについて

執筆者の了解を得た上で、広報委員会が推薦する記事を、科学技術振興機構が運営する学術論文などの電子版プラットフォーム「J-STAGE」に掲載することの報告がありました。

2-3.技術士 CPD 管理運営マニュアル名称変更に関わる関連規程の変更について

「8.技術士CPDマニュアル」に統一されることが承認されました。

所属：西井技術士事務所

(E-mail: nishii-yasuhiro@seagreen.ocn.ne.jp)

委員会・部会報告

総務・企画委員会

活動報告

総務・企画委員会委員 きよさき じゅん こ
清崎 淳子
(応用理学、博士(理学)・福岡)



総務・企画委員会第3グループ活動報告：委員会・県支部会が協働で参加する防災イベントの紹介

2024年10月19日・20日に内閣府が主催する第9回防災推進国民大会『ぼうさいこくたい2024in熊本』が開催された。熊本県・熊本市の協力のもと、出展者数400団体、両日の来場者数18,000人という、過去最大級の盛況であった。九州本部では、例年ブース展示に参加している『先進建設・防災・減災技術フェアin熊本』の開催も11月20日・21日に控えていたが、日本技術士会が参加を続けている「ぼうさいこくたい」へも九州本部防災委員会・熊本県支部で協力し屋外展示に参加することとなった。全国各地で開催される「ぼうさいこくたい」に参加経験のある統括本部社会委員会から情報を頂きつつ、近年の九州本部内での活動の連携を生かしながら対応することができたと思う。

4回目となる「フェアin熊本」の準備は、防災委員会・熊本県支部・青年技術士支援委員会による実行委員会によりスムーズに進んでいる。掲示ポスターや配布するパンフレット等、両イベントで共用できるものもあり、対象が親子連れや一般市民と技術者等専門家という違いを加味し、有意義な活動が展開できている。

会場では、簡単な参加者アンケートを行い、情報収集と認知度向上を図るとともに、各イベントで好評を得ている技術士会の防災カード(名刺大)には、関連情報に九州バージョンを用意して配布している。頻発する災害と連動して防災意識も高まっているが、発災時だけでなく復旧・復興のさまざまな段階で技術士の活躍の場面があり、たくさんの部門が関わっていることを認識してもらう機会ともなっている。親子連れや高校生、高専生や大学生など、これからを担う世代に触れあうことができ、技術士の仕事を知ってもらうという貴重な時間は、私たちにとってまたとない励みにもなる。「日頃はお仕事していて、こんな活動もされているんですか!？」と嬉しい声かけもたくさんいただいた。

今後も、委員会や県支部、部会等必要に応じた柔軟な連携と活動を支援していきたい。

所属：株式会社クロスエンジニアリング
(E-mail: j1u1nj1u1n@yahoo.co.jp)

委員会・部会報告

研究委員会

九州本部第2回 CPD報告

研修委員会副委員長 **藤島 義久**
(建設・総合技術監理・福岡)



令和6年7月27日(土)、福岡商工会議所において、第2回CPDが開催され、会場41名、WEB40名、合計81名の参加があった。以下にその概要について報告する。

最初の講演では、大和探査技術株式会社の調修二理事が「地盤は本当に複雑で分かりにくいのか？」と題して、ご自身が関わられた長大渡海橋の地質調査事例を紹介された。地盤モデルと解決手法の正しさがあれば地盤は想定内の挙動を示すこと、試験結果は地盤毎の評価や物性値間の相関を吟味するなど、先入観を持たずに地盤に向き合う姿勢の大切さを述べられた。

次の星野裕志九州大学名誉教授による「避けられない大規模自然災害へ備え～災害対応の経験から」

と題しての講演では、世界的な自然災害頻発国日本にSTEMの視点から今後必要となるハードとソフトの整備のあり方について、自らの阪神淡路大震災での経験も踏まえて熱意を込めて述べられた。

午後の最初を九州大学工学部の塚原健一教授が「地域力向上のための正確な認識～歴史と法制度を踏まえた議論を」と題して、災害対応、国土強靱化、整備新幹線、流域治水を例に、地域の発展に向けた事業の推進にはしっかりとした計画を策定し、明確に目的を説明することで人々の納得を得ることともに、法律に基づいた議論が必要であることを痛快に展開された。

最後に呉工業高等専門学校の小倉亜紗美准教授から「国際化の生活への影響～コミュニケーションの課題と生態系への影響」と題して、国際化が進む我が国において、外国人住民が急速に増加に適切に対応していくためには多文化への理解を進め、共生社会を目指すことが必要と述べられた。このことをやさしい日本語の導入、ウサギ数と植生との関連など特徴ある研究から具体的に説明された。

所属：株式会社日建技術コンサルタント九州支社
(E-mail: pfujishima0720@yahoo.co.jp)

研究委員会

九州本部第3回 CPD報告

研修委員会委員長 **寺師 政廣**
(上下水道・北九州)



令和6年10月26日(土)、福岡商工会議所で第3回CPD(午前：論文発表会、午後：講演2題)が開催され、86名(会場45名、WEB41名)の参加があった。以下にその概要を報告する。

1. 論文発表会

6名の論文が一次審査を通過し、当日口頭発表による二次審査を行った。発表者は①井内祥人氏(森林部門)、②吉田憲治氏(上下水道・総監部門)、③山口昌紘氏(建設部門)、④土橋晋作氏(応用理学・総監部門)、⑤木下哲治氏(建設部門)、⑥赤石維衆氏(建設・衛生工学・総監部門)であった。論文の内容は評価が高いものが多く審査は難しかったが、5番目に発表された木下氏が「演題：九州地方初 公共工事における土木構造物への建設用3Dプリンター活用の効果検証」で最優秀賞を獲得された。

2. 「社会インフラと点検支援技術」

講師：山田修司氏(計測検査株式会社 技術顧問/建設・総監部門)

国土交通省はインフラ老朽化対策で事後保全型から予防保全型への転換を推奨している。計測検査(株)ではこれまでプラントなどの非破壊検査による維持管理を中心に事業を進めてきたが、ここ数十年は、他企業に先駆け、画像やレーザ、AIなど様々な新技術(MIMM、IRIS-M)を活用したトンネルや橋梁など予防保全に係る点検支援技術を展開されている。

3. 「(続)最新の数値モデルを用いた関門海峡歴史イベントの再評価～なぜ、平家が負け、武蔵が遅れ、長州藩が敗れたか～」

講師：西井康浩氏(西日本工業大学総合防災研究所 客員教授/博士(工学)/建設部門)

昨年12月度CPDの続編。前回は海洋モデルFVCOMの理論面を中心に解説されたため、前回の講演において解説が不十分であった。標記関門海峡の歴史絵巻について、関門海峡の潮流がどのように影響したかを考察。海岸工学の科学技術の新展開として、本研究での歴史考察の再評価ないし検証に応用できることを示された。

(E-mail: masahiro_terashi@kyudai.jp)

地域産業支援委員会

「技術士の窓」をHPに開設 寄稿文投稿で開かれた技術士会へ

地域産業支援委員会委員長 まつなが えいはちろう
松永 榮八郎
(金属、機械・北九州)



1. はじめに

当委員会は技術の相談を受付け、地域の産業に社会貢献することがテーマの一つです。その相談件数増加策として、九州本部HP内に、相談や興味を持って貰うような技術記事を技術士会の皆様に寄稿して頂き、企業の技術者がネット検索でヒットすることにより技術士会との接点を見出して頂くことを狙っています。その寄稿文サイトとして、『**技術士の窓**～たずねてみよう技術と経験の交差点～』を新設しました。技術士会を、部外者にもより身近なものにして頂こうという試みです。

2. 具体的取組

(1) 寄稿文の内容と執筆者：内容は技術に関することであれば、新旧に限らず歓迎します。できれば、中小企業の技術者目線の分かりやすく、為になると思われるものが望ましいが、それにはこだわりません。自己の体験談や教訓的な話でもいいし、当然身に付けて頂きたい基礎的な技術内容でも結構です。

執筆者はまず当委員会委員でスタートしましたが、他の九州本部幹事他、希望者を募る予定です。また

リピー特投稿も歓迎します。

(2) 寄稿文のチェック：技術士倫理綱領を遵守し、かつ技術士らしい表現やマナー等をチェックリスト（当委員会で作成したもの）を用いて3名以上で行い、不十分箇所は修正する。但し、専門の異なるチェック者であることから、内容の真偽まではチェックできないので、執筆者の責任において寄稿頂く。

(3) HPへの編集・掲載：当委員会のHP作成担当の田口氏が編集しHP掲載直前状態に整えた後、広報委員会委員長の承認を得てHP掲載する。

3. 取組の進捗

まず試行として当委員会の小柳氏に寄稿頂き、チェックを経て8月にHP掲載しました。これを確認した上で、当委員会全員を対象に毎月1件の掲載を目標に進めています。11月中旬で、2件掲載中です。「技術士の窓」の入口のHP画面を以下に示します。

4. おわりに

九州本部は、様々な技術分野で精通され実績を有する技術士の集団です。このサイトにアクセスすれば貴重なヒントが得られる、と外部から評価されるまで持続したいと思います。通常の出版図書や文献では得られない書下ろしのコンテンツにできれば、技術士以外の技術者を含めた交流の場としても期待できると思います。

所属：松永技術士事務所

(E-mail: matsu.pebutsu@gmail.com)

**公益社団法人 日本技術士会 九州本部**
The Institution of Professional Engineers, Japan Kyushu RHQ

九州本部のHP

九州本部 お問い合わせはこちら
 **092-432-4441**

HOME

概要と構成

CPDの案内

本部の活動

県支部活動

技術の相談をクリック

技術の相談

技術士を目指す方へ

試験の情報

広報・行事

書籍等の案内

PHOTO

全国大会案内

リンク

アクセス・事務所案内

サイトマップ

技術士の窓

<技術士執筆記事>

技術士の窓

～たずねてみよう技術と経験の交差点～

「技術士の窓」は日本技術士会九州本部に所属する各部門の技術士による、専門分野に関する寄稿文です。技術士が日々の業務や経験から得た知識や技術などをわかりやすく発信します。社会の多くの皆様にとって有益な情報源となることを目指していきます。

<記事一覧>

記事一覧

2024年11月18日 頻発する洪水被害は今後も続くのか
(建設部門 山田 伸雄)

2024年8月30日 サービス業へのIEとコンジョイント法の適用
(化学部門／総合技術監理 小柳 嗣雄)

- 16 -

委員会・部会報告

倫理委員会

活動報告

倫理委員会委員 なかだ しげゆき
中田 成幸
(機械・大分)



1. はじめに

私は、2023年度から委員として、言葉の定義を大切にしながら思考を深めていく諸先輩の姿勢に、刺激をもらいながら、技術者倫理の勉強を進めている。

倫理委員会は、活動管理、教育啓発、企画・配信、連携・交流の4つのタスクチームが活動しており、第2回定例会が9月21日に開催され、1) 新倫理綱領についての意見交換、2) タスクチームからの報告・協議、3) 会務報告等が行われた。このなかで、1) 新倫理綱領に関する講演について紹介する。

2. 新倫理綱領「7.秘密情報の保護」について

久原委員(長崎県支部)が、技術士倫理綱領「7.秘密情報の保護」の改訂内容と考察、留意事項、気づきについて、講演された。

改訂により、経産省の「秘密情報の保護ハンド

ブック」を基に、「秘密」から「秘密情報」という表現に統一され、秘密情報の適切な「管理」と「利用」が明確に規定されている。

留意事項として、以下が述べられた。秘密情報は、研究・開発・製造に関わる技術情報と顧客情報などの営業情報を含み「営業秘密」とされる場合が多く、「営業秘密」と言っても技術者と関係が深い。この営業秘密について、不正競争防止法の保護を受けるためには、「秘密管理性」、「非公知性」、「有用性」の3つの要件が必要であることに注意が必要である。秘密管理性は、在職者への秘密保持誓約書、退職者への競業禁止義務契約、外部への秘密保持契約など、対象者に対し秘密管理意思を明確にすること、秘密情報にはマル秘と明示し、アクセス制限を設けるなどの物的管理を行うことが必要である。非公知性は、その情報の入手困難性が要点である。有用性は、利用により経営効率の改善等につながるものであり、ネガティブな情報も含まれるが、法に違反する事項の情報は当然認められない。

最後に気づきとして、近年の教育による法令遵守浸透の実感と、倫理活動の現状について、意見交換が行われた。秘密情報の権利が守られつつ、社会が発展するため、法を補完する倫理活動も重要である。

所属：株式会社三井E&S
(E-mail: snakada@mes.co.jp)

防災委員会

2024年度の 防災委員会活動

防災委員会委員 おがた まさたか
緒方 正隆
(建設・福岡)



2024年度の主な活動は次のとおりです。①定例会(年4回:防災研修、他)、②防災授業(小学生)、③防災イベントへの出展。今年度は「ぼうさいこくたい2024in熊本(10月19・20日)」にも出展しました。

1. 定例会(7月20日・9月14日・11月9日)

下記の講師による防災研修や県支部との情報交換などを行いました。(第4回は3月開催予定)

- ・大分大学 鶴久教授: 災害情報活用基盤EdiSON
- ・九州大学 井手助教: 九州特有の高潮メカニズム
- ・持田委員: 災害現場から見た地形地質の因果関係

2. 防災授業(福岡県直方市立植木小学校4年生)

防災委員が講師となり防災授業を実施しました。

- ・6/4: 防災授業「命をまもる(クイズ形式)」
- ・10/17: 「重なるハザードマップ」の実習
- ・12/3(予定): まちあるき・安全マップ作成

3. 「ぼうさいこくたい2024in熊本」への出展

内閣府等が主催する全国最大級の防災イベントで、今回は約400団体が出展し約1.8万人が来場しました。日本技術士会九州本部では以下の展示を行いました。

A. 災害対応力を育てる企画展示: ①防災クイズ、②マイタイムライン体験(サンドウィッチマン形式)、③液状化体験、④浸水時歩行体験(右写真はA②の様子)

B. 活動報告パネル展示: ①防災教育、②士業連携、③技術士20部門の紹介、④各県支部活動紹介

「マイタイムライン体験」は好評で、来場者からは「親子で話し合う機会をもらえて本当に良かった」という声をいただきました。

子供にも分かりやすい展示としたことで、外国人を含む様々な方に体験していただき、防災意識向上を図ることができました。



〈九州本部による屋外展示〉

所属：株式会社セルコン
(E-mail: masataka.ogata@selcon.co.jp)

青年技術士交流委員会

第50回技術士全国大会 (札幌・北海道)参加報告

青年技術士交流委員長 **やま だ あきみち**
山田 暁通
(情報工学・福岡)



1. はじめに

2024年10月4日から7日にかけて、第50回技術士全国大会が札幌で開催されました。次回が九州本部の熊本開催ということもあり、青年技術士交流委員会からも、山田、大森、倉成、大川の4名が参加して全国の青年メンバーと交流を深めつつ熊本大会をアピールしてきました。

2. 分科会・記念講演・交流パーティ

第4分科会では「ミライの技術者」をテーマに、北海道本部など全国の青年技術士交流委員会・社会活動委員会・男女共同参画推進委員会の活動事例を共有後、活発な意見交換が行われました。

記念講演では「地域に貢献する経営～地域産業エコシステム」をテーマに、株式会社セコマの丸谷会長より講演がありました。滝上町産和ミントを賛沢

に使用したクラフトジンの紹介が絶妙で、気づけば昼食時間後に寄ったセイコーマートで1本買っていました。



交流パーティでの次回大会紹介

交流パーティでは次回大会のPR時間を取るのが通例となっております。今回は九州本部のメンバー全員で壇上に立って来年の告知を行い、私も「やまモン」として一肌脱いできました(写真中央)。

3. 青年行事

例年、テクノツアー等の青年独自行事があります。10/6(日)の北海道ボールパークFビレッジ見学ツアーでは、建設や街作りの観点で多くの学びがありました。来年の熊本大会でも、このような機会が提供できるよう九州の青年メンバーで鋭意計画中です。活動にご興味ある方は是非、ご連絡ください。

所属：株式会社ロバストプラン
(E-mail: akimichi@robustplan.com)

北九州地区支部支援委員会

2024年度下期活動 実施報告及び計画

北九州地区支部支援委員長 **さか た かずのり**
坂田 一則
(金属、総合技術監理、博士(工学)・北九州)



1. はじめに

北九州地区支部支援委員会の2024年度下期のCPD研鑽会を中心とした活動実施と活動計画の概要を報告する。

2. 2024年度下期の主な活動実施報告及び活動計画

2-1. 活動実施報告【施設見学会】

10月5日に北九州市若松区南二島2-23-1にあるシャボン玉石けん株式会社(会社の理念:健康な体ときれいな水を守る)を工場見学、技術交流を一般参加者含めて25名の参加で実施した。(写真1.に示す。)

2-2. 活動計画【第15回公開シンポジウム】

2024年12月14日(土)13時から九州本部主催で北九州市生涯学習総合センター3階ホールを会場と

して、「今、この地域で技術文化のパッションを繋げ!」～人口減少時代、自分のルーツを考え技術を伝える～をテーマに、第一部で深堀 聡子氏(九州大学 未来人材育成機構教授)の問題提起、第二部において産・官・民・技術士からの取組みを紹介し、第三部ではパネルディスカッションを予定している。

2-3. 活動計画【合格祝賀会及び忘年会】

公開シンポジウム終了後、会場を小倉リーセントホテル(北九州市小倉北区大門1丁目1番地17号)に移して、技術士合格者祝賀会と会員相互の交流事業として忘年会を兼ねた懇親会を開催予定である。



写真1. 施設見学会

所属：坂田一則 技術士・労働安全コンサルタント
(E-mail: ksakata@bronze.ocn.ne.jp)

委員会・部会報告

建設部会

建設部会報告

建設部会長 おかだ ひろあき
岡田 裕彰
(建設、総合技術監理・福岡)



1. はじめに

第50回技術士全国大会（札幌・北海道）の関連行事として開催された建設部会意見交換会に出席しましたのでその概要を報告します。

この会議は、地域本部と統括本部建設部会の活動内容や課題の共有、建設部会への要望・提言等について相互に意見交換する目的で開催するものです。

2. 意見交換会の概要

意見交換会は、2024年10月4日（金）13:30から16:00まで、ホテルポールスター札幌（札幌市中央区）で開催されました。出席者は統括本部から黒崎技術士会会長、松岡建設部会長他13名、各地域本部からは建設部会代表者15名、参加者の総数はWEB参加を含め61名でした。

会議では、建設部会運営方針・建設部会の活動報告の後に全国8地域本部各地域の代表者による地域本部の活動報告がなされ、引き続いて建設部会と地域との連携に関する意見交換が行われました。

九州本部からは昨年度の技術講演会、現場見学会の活動状況等の報告、また統括本部に対して地方在住会員に配慮したCPD行事の充実、資格の活用促進に向けた取り組みの推進等の要望・提言を行いました。また、統括本部からはCPD活動に関して講演会の地方との共催など統括と地方との連携を強化していきたい旨の意見、中部や中国本部からは、CPD情報の共有などの要望・提言等が出されました。その他、各地域から多くの要望・意見が出され活発な議論となりましたが、紙面の都合ですべてを報告することは出来ません。詳細は技術士会HP等をご参照ください。

3. おわりに

今回の意見交換会で、統括本部の活動方針や各地域本部の活動状況等の様々な貴重な情報が得られました。これら得られた情報は九州本部建設部会の今後の活動に活かしていきたいと考えています。

所属：西鉄シー・イー・コンサルタント株式会社
(E-mail: hiroaki.okada.km@nnr-g.com)

環境部会

活動報告(講演会)

環境部会長 まつだ けんし
松田 研志
(上下水道、建設、総合技術監理・福岡)



1. はじめに

環境部会は、九州地区の上下水道部門、衛生工学部門、環境部門の技術部門の技術士が構成員であり、部会員の継続研鑽、関連学協会との連携を主たる活動目的としています。

本稿では、2024年11月20日（水）に実施した環境部会講演会について報告いたします。

2. 能登半島地震被災地における福岡市水道局の支援

福岡市水道局総務部総務課 田代真之様に、能登半島地震被災地における福岡市水道局の支援活動を現地の写真を含め詳細に説明して頂いた。また、福岡市水道局計画部技術管理課 福永晋也様に、福岡市における水道DXの推進について、ICT事例紹介を含め詳細に説明して頂いた。

3. 大気環境のトピックス～福岡県の大気環境の現状と課題

福岡県保健環境研究所大気課長の山本重一様に、大気環境のトピックスと福岡県の大気環境の現状と課題についてわかりやすく説明して頂いた。

福岡県の大気環境は、光化学オキシダントが環境基準を達成できていないことが分り、大気シミュレーションモデルを活用したPM2.5の要因解明結果、オキシダント濃度に対するNOx排出量、VOC排出量削減効果の試算結果等の説明がありました。



4. おわりに

今回初めて、会場参加とオンライン参加併用の講演会を実施した。参加者は会場参加19名、オンライン参加15名であった。

所属：松田技術士事務所
(E-mail: matsu1@docomonet.jp)

ものづくり部会

活動報告・お願い

ものづくり部会長 にし お ゆき お
西尾 行生
(機械、博士(工学)・福岡)



ものづくり部会は、機械部門、海洋・船舶部門、航空・宇宙部門、電気電子部門、化学部門、繊維部門、金属部門、資源工学部門、経営工学部門、原子力・放射線部門、情報工学部門の技術士343名が参加する会員の集合組織であり、統括本部の各部会の窓口担当を含め幹事15名で活動しています。

活動では、大会主催のCPDは日本全国からの参加もあり、参加者100名近くになっており、300名規模のCPD企画を目指していたり、討論会風の対面CPDや研究機関との見学会等を企画したりと、新しい取り組みをしているところでございます。

今回は会員の皆様への「幹事募集」についてお願いいたします。

【幹事募集】

当部会は全国の多くの部門の皆様に質の高いCPDや見学会をご提供することを通して、皆様との連携を深めていきたいと考えているところですが、九州本部活動としての守備範囲が沖縄・全九州であるにも関わらず福岡県以外の幹事が少ないという事が課題です。本来ならば、各部門・各県で数名として、30～40名はいなければなりませんので幹事になっていただける方を募集します。

コロナ以降活動はほぼオンラインでできるようにしました。そこで以下のような方にぜひ幹事になっていただきたく、よろしく願いいたします。

- ・各県支部の部会員との連携を進めたい、自らの声を届けたい
- ・もっと面白いCPDや見学会を企画・提案したい
- ・紹介したい企業・産業・大学・研究施設がある
- ・CPDや見学だけでなく、ものづくりを産学官連携で推進したい、その中で技術士のプレゼンスを高めたい等々、技術士としての社会貢献に資することを実施したい方はすべて対象です。

【条件】

九州本部ものづくり部会幹事の称号となりますので技術士会会員・準会員であることのみが条件とな

ります。

技術士・技術士補は問いません、関連部門以外の方でもお仕事や経歴などは本部と調整いたします。(福岡県以外を強調しておりますがもちろん福岡県の方も大歓迎です。)

【ものづくり部会が目指すところ】

当部会は技術士の力で我が国のものづくりの力を推進することが本来の目標ですから、CPDや見学会も外部の機関との意見交換をし、相互理解を深めるとともに、その場限りではなく、後々まで交流できるようにしていきたいと考えております。また部会内部で技術的な議論を高め、技術士発信で地域の産業支援、産学官連携に参画していくというのも夢です。

【最後に重ねてお願いいたします】

私たちの活動に興味がある、協力したい、又は自身が新しい活動を考えたい、という方がいらっしゃいましたら是非私たちと一緒に幹事として活動していただきたいと存じます。

実際のところCPD・見学会以外はほぼゼロからのスタートになります。まずはCPDや見学会のプロデュースからで良いのでお願いいたします。会務の負担も自分でコントロールできますし、皆で力を合わせて遂行していきますのでご安心ください。見学会以外は、全員が完全オンラインで活動しますのでハイブリッド等のやりにくさは全くございません。また、皆様の地元に行かねばならぬ時は部会長や副部会長が福岡からの出張も致します。

ともかく、お電話、メール、オンライン会議でお話ししましょう。

また、幹事になるのを迷っている方は、部会にオブザーバー参加いただくという事も大歓迎です。

ご連絡をお待ちいたします。

所属：東京地方裁判所専門委員第202220号
(E-mail: nishio_yukio_pe@ab.auone-net.jp)

委員会・部会報告

みどり部会

活動報告

みどり部会長 **やまべ てつろう**
山部 鉄朗
(森林・福岡)



11月8日の九州地区森林技術者講習会が福岡県教育会館で開催され66名（うち技術士会会員23名）の参加があり4件の発表がなされたので報告します。

1. 『日本人が愛した「地すべりの安定解析」』

講師：眞弓孝之((株)国土防災技術国際部国際部長)

今回の講演は、日本でも多発する地滑りの安定解析に関する内容でした。その要旨は

1) 日本の地滑り対策は、安定解析がベースとなって実行されており、安定解析はその結果で対策工の工種数量が決まる重要なものである。



2) 地滑り調査は、安定解析を適切に行うためのブロック設定や間隙水圧、土質定数等の条件を得るための重要な作業である。

3) インドでの事例をもとにした日本と海外の安定解析の精度比較では、使用するDEMなどの地形データ精度や間隙水圧の取り扱い（間隙水圧を考慮しているのは日本のみである）、また、ボーリングデータの取扱い等で日本の解析技術の優れていることが分かりやすく説明された。

2. 『熱帯林と私たちの暮らし』

講師：藤原敬大（九州大学大学院農学研究院環境農学部門准教授）

藤原先生は、熱帯林の現状と課題をインドネシアでの事例紹介を用いて講演頂いた。我々の周りのコピー用紙など熱帯林由来の様々な製品が溢れてい



ます。しかし、その製造過程では多くの天然林を伐採し、製紙用の単一樹種に転換するなど環境破壊と地元住民との紛争が引き起こされているものが多数存在している。このような現実を私たち消費者は理解して、より環境負荷の少ないアプローチで生産され森林認証制度に適合したものを選択するなど森林

の持続可能性確保の重要性を説明された。

3. 『高速道路における渓流災害への対応について』

講師：川原田氏（(株)西日本高速道路九州支社鹿児島高速道路事務所副所長）

川原田氏の発表は、令和5年7月10日の九州横断道高山トンネルの東と西の二つの坑口で発生した土石流災害の発災前の



警戒態勢構築から発災時の通行車両の避難誘導と二次災害防止の応急処置から、原因調査（発災前後のLP測量による流出土量推定）、対策工検討、実施のプロセスを一部動画を交えて紹介していただき、発災⇒通行止め⇒応急対応⇒仮復旧⇒本復旧の流れの中で発生原因の一端やいかに努力されているかが分かりやすく説明されている。今回の原因は、土石流源頭部に位置する林道の排水施設の落葉落枝による目詰りで、雨水が排水施設外へ流出しその一因となったことや交通規制の基準は、直近10年間の発災時連続雨量によるが、今回のケースのように適合しないケースが出るたび見直していることなどわかりやすく説明されていた。

4. 『ちくらす2015～2024一産学官連携による地域材振興一』

講師1：佐藤庸一氏（福岡県飯塚農林事務所林業振興課長）

講師2：鷹野宣則氏（福岡県八幡農林事務所林業振興課普及係長）

佐藤・鷹野両氏は、北九州の南に位置する京築地区の良質なヒノキを広く消費者にアピールし需要を喚



起する為に、人や組織、予算といった資源を確保・推進してきた。具体的には、行橋農林管内の森林組合と西日本工業大学の教員と学生をつなぐファシリテータとして指導力を発揮し、資金も民間から調達するなど公務員にはなかなかない発想で、鉄道駅舎の木質化や様々な木製品開発、および、それらのJAPAN DESINWEEK IN MILANOという海外でのPRなど継続しての取り組みは、他の自治体にも参考になると考えました。

所属：株式会社コンサルハマダ福岡支店
(E-mail: angle26of26repose626@gmail.com)

支部だより

北九州

無知の知

幹事(研修担当) **鶴田 靖孝**
(電気電子・北九州)



佐賀から福岡に転勤して1年半が過ぎました。当初は普段活動をしている周囲の環境に違和感を覚える日々でした。たとえば、公園を散歩していると野良ネコと楽しそうに会話をするヒト、毎日ゴミで散らかる歩道、夜中に近所から聴こえる外国の方の悲鳴に近い叫び声。ところが、不思議なもので、1年も過ぎると何も考えなくなり、無関心でしょうか特に気にならなくなりました。そして、この状況は危険な状態ではないのでしょうか。自身を通り過ぎる様々な事象について、さて?しかし?ところで?はてはて?うーん?と危機意識が鈍くなり、本当の危険に対し、回避能力が遅れてしまうからです。

「無知の知」という言葉があります。様々な角度から見ると、森羅万象の理解ができる言葉です。年齢

を重ね、知識・知見と経験の記録が増えてくると、目の前の事象を、その記録と比較し狭い領域の記録情報からモノゴトを考えてしまいます。理由は、過去の成功事例や、考える僅かな時間を惜しんだり、何よりも楽な方法なのかも知れません。しかし、私には知らないことが無限大にあると常に認識し、目の前の事象を見ると、今までとは異なる理解と良知の活用が可能となるのではないのでしょうか。

先のネコと会話するヒトは、何か心配事があるのかもしれない。ネコにお話を聞いていただいている世界に踏み込まない様、そっとその場を去りましょう。

ゴミはニューヨークの割れ窓理論という考えがあり、放置すると何か大きな事象につながるかもしれません。せめて歩いている時に目の前のゴミは、またがないよう、その場で拾い近くのコンビニエンスストアで処分する。悲鳴についても、周りが関心を示さないと大きな事件につながる恐れがあるので、部屋の明かりを付けて「聞こえてますよ」とサインを返す。そのような反応が大切と考えています。

所属：株式会社九電工 グリーンイノベーション事業本部
(E-mail: y-tsurut@kyudenko.co.jp)

大分

大分県支部 現地研修会の開催

幹事(広報担当) **竹内 一博**
(建設・大分)



日本技術士会九州本部大分県支部では、恒例行事として「現地研修会」を実施しています。目的は、九州地区で注目されている様々な分野の技術の動向や情報を収集することにより、会員個人の技術の研鑽を積むこと、また、研修会を通じて会員同士の親睦を図ることです。コロナ禍でしばらく中断していましたが今年は10月24日に実施しました。研修内容は、①滝室坂トンネル建設現場見学②九州電力軸丸発電所改修工事現場見学を実施しました。参加者は、湯地支部長以下会員等17名が参加しました。当日は9時に貸切りバスにて大分駅を出発し、中九州道を通って阿蘇市一の宮町を目指しました。

最初の研修先である滝室トンネル工事現場では熊本河川工事事務所建設監督官の佐野様、清水・東急・森JV現場代理人石川様より工事内容について説明をしていただきました。当日の作業は最後の覆工コンクリート打設とのことでした。覆工コンク



リートがとてもきれいに仕上がっていたのが印象的でした。

お昼はくじゅう花公園にて食事をとりました。この季節はケイトウ、ペコニア、マリーゴールドが見頃でとてもきれいでした。午後からは、大分県豊後大野市緒方町にある九州電力軸丸発電所総合更新工事の現場を見学しました。前田建設工業・梅林建設JVの羽根田所長に工事の説明をしていただきました。軸丸発電所は1920年(大正9年)に運転を開始したので100年以上経過している古い発電所です。導水路と発電所本体を改修しているとのこと。今回は非常に有意義な現地研修会となりました。来年も実施したいと思っています。

所属：株式会社インフラネット
(E-mail: takeuchi@infra.co.jp)



支部だより

鹿児島

知名度と認知度

鹿児島県支部長 いうち よしひと 井内 祥人
(フェロー・森林・博士(農学)・鹿児島)



1. はじめに

公衆に固有名詞を理解して頂くには、「知名度」と「認知度」の両方が必要である。しかし、「知名度」だけで十分だと勘違いをしている人も多い。

現在、統括本部及び地方組織は、「技術士」という「知名度」普及を主体に行っている。さらに重要である「認知度」普及に関して、あまり意識していないように見受けられる。

2. 当支部の活動

当支部では、「知名度」の普及は、主に官公庁と在学生を対象に行っている。官公庁には、一四半期ごとに発行される本誌が役立っている。本誌を年四回、毎回、原則として所属長に手渡し、技術士の内容を繰り返し説明することで、「公益社団法人日本技術士会鹿児島県支部」の名称及び活動内容も以前と比べると相当、認識されるようになってきた。

3. 在校生への活動

県内の鹿児島大学、第一工科大学及び鹿児島高専へは統括本部作成のパンフレット「技術士の概要」を、毎年、100部程度、学生に配布している。また学校の「技術者倫理」の講義中にも時間を割いて、技術士制度と技術士試験の概要について説明を行っている。

このため、技術士の「知名度」は格段に上がってきている。しかし、名前は知っているが、どのような仕事内容かという「認知度」は、まだまだのようである。

4. おわりに

2024年10月30日に、鹿児島大学工学部で三年生を対象にした九州本部青年技術士交流会主催の技術士制度説明会が実施された。42人の学生が聴講していたが、講演後のアンケートでは「講演を聞く前から“技術士・技術士制度”について知っていたか」の問いに、三分の二の学生が「技術士の名前は聞いたことがあるが、制度までは知らなかった」と回答している。つい数年前までは、「技術士」の名前を知っている人は、一クラスで数人であった。これからは、「知名度」から「認知度」向上に移行する段階にきている。

所属：中央テクノ株式会社
(E-mail: iuchi@chuuou.jp)

CPD報告

長崎

長崎県支部 第3回CPD研修会報告

幹事(広報担当) しみず まさあき 清水 正明
(建設、上下水道、総合技術監理・長崎)



令和6年度第3回CPD研修会が11月6日(水)諫早市の「諫早商工会館」で38名の参加の下、開催されましたので報告します。

演題1.「熊本城石垣の復旧と復興(城郭石垣の設計の紹介)」A1-1

講師 山口昌紘氏(建設) 扇精光コンサルタント(株)
○平成28年に発生した熊本地震により熊本城は大きな被害を受けた。建物は重要文化財を含む建物全てが被災し、石垣は全体の3割である24,000㎡が変状もしくは崩壊した。石垣復旧設計業務は被災した石垣の解体及び修理に係る設計を目的としており、測量、地質調査、設計、施工計画までを含む3年間にわたる仕事であった。その過程で生じる耐震診断及び補強土壁の設計における技術

的な課題と現時点における解決策を提示する。

演題2.「今、あらためて技術者の倫理について考える」B7

講師 岩尾勇四郎氏(応用理学) (株)バイオテックス
○技術士に倫理観が求められるようになって久しい。ヒトの誕生後、自然科学の技術進歩だけが突出してきた。人間が出生してから成長する過程を自我の発達と多様性で俯瞰して、人間の本質を分析する。次にヒトが展開して来た社会システムの変遷を分析する。その中で真と嘘、騙しと脅しの事例を分析する。

演題3.「認知症の症状と治療・ケア・予防に関して」

講師 田山達之氏(長崎大学病院認知症疾患医療センター 副センター長)

○本県は日本の中でも高齢化率が高く、その分認知症対策を求められている。当院は認知症疾患医療センターがあり、精神神経科と脳神経内科が協働して治療に当たっている。診察所見と検査所見から診断し、治療を行うが、一般的に注意すべき症状やケアのポイント、新規の認知症薬を含む治療法、予防などに関して情報を発信している。

所属：株式会社高松設計コンサルタント
(E-mail: natasc-se6@marble.ocn.ne.jp)

大分

大分県支部 CPD報告

研修委員長 うえき 植木 かずひろ 和宏
(建設、総合技術監理・大分)



大分県支部の令和6年度第2回CPD研修会(通算55回)は、予定通り9月7日(土)に、大分県教育会館大ホールとWeb講習会を併用し、大分県技術士会主催、大分県測量設計コンサルタンツ協会協力、土木施工管理技士会後援で開催されました。

講演1:「最新の海洋流動モデルを用いた関門海峡歴史イベントの再評価～なぜ、平家が負け、武蔵が遅れ、長州藩が敗れたか～」(西井康浩先生)では、地政学的に重要な地域であり、交通の要衝でもある関門海峡において繰り広げられた、『壇ノ浦の合戦』『厳流島の決闘』『下関戦争』の三つの歴史イベントを、最新の海洋数値モデル・FVCOMによる予測値を活用し、歴史考証に応用した試みをされていて、歴史的見地と物理学的見地の両面から考察するという、他に例を見ない斬新な内容でした。

講演2:「都市計画道路事業(庄の原佐野線)と盛土規制法について」(奈良崇史先生)では、大分市内の

東西骨格軸道路である、当該道路の整備状況について説明いただきました。また、来年度規制開始予定の盛土規制法についても説明いただき、両方とも身近で実用的な話題でした。

講演3:「土木広報の実践―使命と価値を伝えよう―」(松永昭吾先生)では、先生の勤務されている横浜国立大学 元気なインフラ研究所(昨年設置)の紹介に始まり、土木史からみたものづくりの魅力、科学技術による社会問題の解決、科学技術分野における課題と解決策という流れで、土木の、そして技術者のあるべき姿について語っていただきました。

講演4:「大分大学のとりせつ 連携で挑む課題の解決」(小川領一先生)では、①専門の衛生工学(廃棄物管理)分野の海外協力の経験から、世界における政治・経済的課題に直面した体験を、次に、②地域教育研究機関の中心を担う大分大学の「大分大学ビジョン2040」について、その概要、国立大学に求められる期待される機能・役割、地域社会との連携スキーム、解決した課題の具体的事例、課題解決の進捗を測るSDGs指標等を説明いただきました。情報の少ない国々の現状の話もあり、貴重なお話でした。

次回は、11/30開催予定です。

所属：株式会社レックス九州
(E-mail: k.ueki@re-cs.co.jp)

鹿児島

第44回 CPD講演会報告

副支部長 たかあぜ 高畦 ひろし 博
(建設、総合技術監理・鹿児島)



1. はじめに

2024年11月10日(日)、鹿児島市勤労者交流センターで第44回CPD講演会を開催した。県内外から30名(うち会員27名)の参加を得た。

2. 『地球の真水資源』岸上 祐子氏(九州大学大学院工学研究院 特任助教, 博士(環境科学))

地球における真水資源の在り方についてご講演いただいた。従来ローカルな問題と考えられてきた真水問題について、先生が海外で体験された話や、水問題をグローバルな視点から説いた図書の紹介から講演が進められた。北米大陸やインドにおける過剰な地下水の汲み上げなどによって、世界的に帯水層の地下水位が低下しているとされる事実や、隣国での肉食への食生活の変化によって、家畜だけでなく飼料生産に多くの真水消費が急増している事実に驚かされた。わが国でも、食糧の輸入によってパー

シャルウォーターとして海外から水が移動していることを考えると、真水問題をグローバルな視点で考える必要があると気づかされた。水問題への取り組みとして新国富指標の概念で活動されている自立分散型給水システムを実践している地方自治体の事例などの紹介があった。

3. 『建築の保存再生デザイン』

鯉坂 徹氏(鯉坂建築研究所 代表)

近現代の名建築物の保全に向けて活動しているDOCOMOMOプロジェクトや、歴史的建造物の保存再生の基本理念をまとめた「ヴェネツィア憲章」を中心に講演いただいた。近現代の名建築物が長く活用されてきたにもかかわらず消えつつある現状、建築から相当な年月を経過したことにより近年多くの公共施設が建て替えられている現状について、国内や鹿児島県内の事例を交えて紹介いただいた。中には新築よりも保存による方法が安価に整備できる事例もあり、新築(改築)を前提とした建て替えが果たして良いのか、議論が必要との提起があった。「ヴェネツィア憲章」にもとづき保全、修復された事例や、当初の建築用途とは異なった改築がされた事例などが紹介された。

所属：大福コンサルタント株式会社
(E-mail: hiroshi.takaaze@nifty.ne.jp)

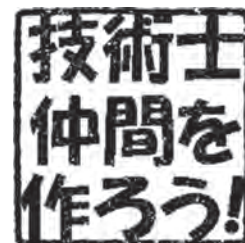


九州本部青年技術士交流委員会 メンバー募集案内



- 技術士試験に合格したが……
- 技術士(補)として登録したが……
- 日本技術士会の会員になったが……
- 職場外活動を始めようと思うが……

「何から、どのようにして
参加していけば良いのか分からない」



といった方へのご案内です
↓こちらから！

九州本部青年技術士交流委員会は、概ね45歳以下（やる気があれば何歳でもOK！）のメンバーで構成され、家庭・職場に次ぐ第3の交流の場です。様々な部門の技術士の相互交流を通して自己啓発・社会貢献・人脈形成など様々な経験・成長を実感できるはず！

合い言葉は「できる人が、できる時に、できることを」とし、楽しみながら様々な活動をしています。あなたも一緒に活動してみませんか？

活動の三本柱

研鑽活動	普及活動	交流活動
・CPD ・見学会 ・夏休み自由研究 ・公開講演会 ・研鑽会 など	・技術士制度説明講義 ・JABEE認定課程支援活動(大学・高専での講義) ・女性技術者・女子学生懇談会 など	・合格祝賀会 ・納涼会 ・忘年会 ・ゴルフ大会 など

応募の詳細は
↓こちらから！

情報提供（イベント告知、広報活動等）

- Facebookページ
<https://www.facebook.com/YECofKyusyu>
- 九州本部の広報誌「技術士だより・九州」でも活動内容を紹介しています



応募フォーム(QRコード)

URL:<https://bit.ly/3fxXsnv>

問い合わせ先：kyusyu.seinen.pe@gmail.com（担当：大川）

技術士全国大会

1PEJ ANNUAL CONFERENCE

第51回

KUMAMOTO CASTLE

熊本県 熊本市

大会テーマ：かたろう技術のミライ×つなごう技術のチカラ
集え～火の国・水の国～

大会構成

DAY1
■開通行事 ■ウェルカムパーティ

DAY2
■第1～第4分科会
■大会式典 ■分科会報告 ■記念講演
■交流パーティ ■パートナーズツアー

DAY3/4
テクニカルツアー

会場
熊本城ホール
〒860-0905
熊本市中央区桜町3番40号
https://www.kumamoto-jp-hall.jp
ウェブサイト
QRコード

会期
2025
10/25(土)-10/28(火)



主催：公益社団法人 日本技術士会
事務局：公益社団法人 日本技術士会九州本部 第51回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）実行委員会
後援（予定）：文部科学省 ほか

開催プログラム PROGRAM

10月25日 (土)	関連行事	委員会・部会による連絡会議・専門部会	熊本城ホール3F 会議室他
	ウェルカムパーティ		熊本城ホール3F
10月26日 (日)	第1分科会	防災 一連携のチカラー 「経験を活かす・備える」	熊本城ホール3F 会議室
	第2分科会	青年 ミミライのチカラー 「ミミライを支える技術者」	
	第3分科会	地域 一高まるチカラー 「ハイテク産業の集積と地域の未来」	
	第4分科会	人材 一はばたくチカラー 「人口減少社会における人材育成」	
	大会式典		
	分科会報告		熊本城ホール2F シビックホール
記念講演	九州大学名誉教授・熊本大学客員教授一松田泰治氏一 「2016年熊本地震の教訓に学ぶー更なる創造的復興に向けてー」		
	交流パーティ		熊本城ホール3F
	パートナーズツアー	山鹿灯籠灯基盤、八千代産ほか	県北コース
10月27日 (月)	テクニカルツアー A	益城町・南阿蘇村・熊本地震震災ミュージアムほか	日帰りコース
10月27日 (月) 10月28日 (火)	テクニカルツアー B	人吉・球磨 2020年九州豪雨災害遺構・人吉温泉ほか	1泊2日コース

※プログラム及びツアーの内容は都合により変更する可能性があります。

記念講演 CEREMONY

2016年 熊本地震の教訓に学ぶ～更なる創造的復興に向けて～
2016年熊本地震から得た教訓を振り返り、地域防災力向上に繋げるとともに、
新たな社会経済動向を活かした更なる創造的復興に向けて、その課題や展望を探ります。

専門分野：地震工学・都市防災・リスクマネジメント

九州大学名誉教授・熊本大学客員教授
TAJIMA MAZDA 松田 泰治 氏



お問い合わせ CONTACT

公益社団法人 日本技術士会九州本部 事務局 / 第51回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）実行委員会
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3丁目19番5号 博多石川ビル 6階02号室
TEL 092-432-4441 FAX 092-432-4443
EMAIL pekyushu@nifty.com WEBSITE https://www.pekyushu.com



会員ニュース

公益社団法人 日本技術士会(九州本部) 入会

〈令和6年8月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
佐賀 正会員	田中 剛	機械	YANMAR COMPACT GERMANY GMBH Commontechnology Group Engineering Dpt.
沖縄 正会員	藤田 和幸	建設	琉球建設コンサルタント株式会社 調査設計部
沖縄 正会員	盛田 泰史	建設	日本工営都市空間株式会社 農業 沖縄支店
熊本 正会員	安田 信洋	建設	玉名市役所 建設部 総合技術監理
福岡 正会員	田山 良一	応用理学	株式会社ウエスコ九州支社 技術部
大分 正会員	都甲 祐介	生物工学	三和酒類株式会社 三和研究 所開発室
長崎 準会員	藤原 晴美	建設	

〈令和6年9月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡 正会員	黒田 信嗣	電気電子	株式会社関電工 西日本営業 本部 コストマネジメント部
長崎 正会員	井上 剛	建設	E-tecsコンサルタント株式会社 総合技術監理

福岡 正会員	今井 昌之	建設	今井技術士事務所 水産： 総合技術監理
福岡 正会員	下向 則好	建設	日鉄鉱コンサルタント株式会社 九州本社
沖縄 正会員	畑中 謙吾	建設	沖縄環境調査株式会社 総合技術監理 環境技術・化学部 環境
福岡 正会員	松田征之助	建設	国土交通省 九州地方整備局 河川部
福岡 正会員	小山田博之	応用理学	アジア航測株式会社 九州国土 保全保安コンサルタント技術部
福岡 正会員	田中 英幸	応用理学	呉調査設計株式会社 調査部

〈令和6年10月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡 正会員	福地 泰彦	機械	株式会社三井ハイテック 技術本部
熊本 正会員	井之上尚史	建設	熊本市 総務局契約監理部 総合技術監理
福岡 正会員	椋本 浩一	衛生工学	パシフィックコンサルタンツ 総合技術監理 株式会社 九州国土基盤事業部

協賛団体会員

.....[福 岡].....
 (株)エム・ケー・コンサルタント
 (株)カミナガ
 (株)建設環境研究所九州支社
 (株)建設技術研究所九州支社
 (株)久栄総合コンサルタント
 産業開発コンサルタント(株)
 (株)サンコンサル
 ジーアンドエスエンジニアリング株式会社
 第一総合技術(株)
 第一復建(株)
 大成ジオテック(株)
 大和コンサル(株)
 (株)高崎総合コンサルタント
 (株)テクノ
 西鉄シー・イー・コンサルタント(株)
 西日本技術開発(株)
 西日本コントラクト(株)
 (株)西日本測量設計
 日鉄鉦コンサルタント(株)九州本社
 日本工営(株)福岡支店
 日本地研(株)
 富洋設計(株)九州支社
 平和測量設計(株)
 (株)ヤマウ
 (株)唯設計事務所

.....[北九州].....
 (株)永大開発コンサルタント
 (株)松尾設計
[佐 賀].....
 朝日テクノ株式会社
 (株)エスジー技術コンサルタント
 九州技術開発(株)
 (株)九州構造設計
 (株)コスモエンジニアリング
 新栄地研(株)
 (株)親和コンサルタント
 精工C&C(株)
 (株)トップコンサルタント
 西日本総合コンサルタント(株)
 日本建設技術(株)
 シマウチエンジニアリング(株)
[長 崎].....
 扇精光コンサルタンツ(株)
 (株)実光測量設計
 大栄開発(株)
 太洋技研(株)
[熊 本].....
 旭測量設計(株)
 (株)ARIAKE
 (株)九州開発エンジニアリング
 (株)熊本建設コンサルタント
 (株)建設サポートセンター
 (株)興和測量設計
 (株)ヒライ・コンサルタント
 (株)水野建設コンサルタント

.....[大 分].....
 九建設計(株)
 協同エンジニアリング(株)
 ダイエーコンサルタント(株)
 東洋技術(株)
 東洋測量設計(株)
 西日本コンサルタント(株)
 (株)日建コンサルタント
 日進コンサルタント(株)
 (株)富士設計
 松本技術コンサルタント(株)
[宮 崎].....
 (株)アップス
 九州工営(株)
 (株)ケイディエム
 (株)国土開発コンサルタント
 (株)白浜測量設計
 南興測量設計(株)
 (株)西田技術開発コンサルタント
 (株)東九州コンサルタント
 (株)都城技建コンサルタント
[鹿児島].....
 (株)久永コンサルタント
 (株)南日本技術コンサルタンツ
 (株)アジア技術コンサルタンツ
 大福コンサルタント(株)

次 回 の 予 告 (第143号 令和7年4月)

○2024年度 九州本部12月度C P D
 ○2024年度 九州本部第4回C P D

編 集 後 記

新年明けましておめでとうございます。昨年は、元日の能登半島での地震に始まり、8月の南海トラフ地震や例年同様の各地での豪雨などがあった一方で、パリ五輪での日本人選手の活躍、大リーグ大谷翔平選手の2年連続MVP、日本被団協のノーベル平和賞受賞など、誇らしく明るい話題も多くありました。今年は1月のトランプ大統領の就任に伴い、国際情勢の変化の多い年になるのではないかとわれています。国内・国外とも、平和で穏やかな年になることを願わずにはられません。

今年10月に熊本城ホールで開催される第51回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）に向けて、いよいよ準備が本格化してきます。九州本部での開催準備の進行に合わせて、本誌でも大会に関する情報を提供していきたいと考えています。（松田）

編集：広報委員

【福 岡】久保川孝俊、棚町 修一、西尾 行生
 原田 正則、松田 敦
 【北九州】宮崎 照美 【佐 賀】合志 勉
 【長 崎】清水 正明 【大 分】竹内 一博
 【熊 本】沼地 英二 【宮 崎】満留 康裕
 【鹿児島】高畦 博

発 行：公益社団法人 日本技術士会九州本部
 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-19-5
 （博多石川ビル6階D2号室）
 九州本部： ☎(092)432-4441
 FAX(092)432-4443
 E-mail:pekyushu@nifty.com
 九州本部ホームページURL：
<http://www.pekyushu.com/>
 印 刷：株式会社チューエツ